

USER'S GUIDE

*WinBook*

*J2SX-33 486 Notebook Computer*

*WinBook<sup>2</sup>*

*J2DX2-50 486 Notebook Computer*

*WinBook<sup>3</sup>*

*J2DX4-100 486 Notebook Computer*

SOTEC

***WinBook***

***WinBook2***

***WinBook3***

ノートブック コンピュータ

ユーザーズガイド

株式会社ソーテック  
日付1994年9月8日

## 目 次

はじめる前に	2
WinBookの標準機能	3
WinBookに含まれるもの	4
■ ハードウェア	4
■ ソフトウェア	5
■ 書類関連	5
■ 取り扱い上の注意	6
さあ、はじめましょう	8
本ガイドに出てくる単語の字体の意味	9
システムソフトウェア	10
■ MS-DOS	10
■ Microsoft Windows	10
困った時には	12
チャプタ 1 第一段階	13
コンピュータの開け閉め	14
WinBook各部の外観説明	16
■ 左前から	16
■ 後ろ右から	20
■ 底面から	21
■ 周辺装置への接続部	22
電源	24
マイクロコンピュータシステムについて	25
マイクロトラックボール	26
■ マイクロトラックボールの引き出し	27
■ マイクロトラックボールのクリーニング	27
コンピュータをスタートさせる	29
■ ここで必要なもの	29

## 目 次

■ コンピュータをスタートさせる .....	29
■ コンピュータの電源を入れる .....	30
■ 内部カレンダー、時計を設定する .....	32
コンピュータをリセットする .....	33
チャプタ 2 ディスクドライブ .....	34
ハードディスクドライブ .....	35
■ ハードディスクを取り外す .....	35
■ ハードディスクドライブ（以下HDD）を取り外すには .....	35
■ ハードディスクドライブを装着する .....	36
フロッピーディスクドライブ .....	37
■ フロッピーディスクの取り扱い方 .....	37
■ データ書き込みを禁止する .....	38
■ フロッピーディスクのFDDへの出し入れ .....	38
■ 3モードFDDの使用法 .....	39
チャプタ 3 キーボード .....	40
キーボードの各部 .....	41
■ ファンクションキー（F1...F12） .....	41
■ 文字入力キー .....	41
■ カーサキー .....	41
■ その他のキー .....	42
キーボードを使う .....	43
■ 編集する .....	43
■ シフトキーなど .....	44
■ トグルキーのなかま .....	45
■ ファンクションキー .....	46
■ エスケープキー .....	46
エンベデッドキーを使う .....	47

## 目 次

システムファンクションキー（システム制御キー）	49
■ システムコンフィグレーション	49
■ パワーマネージメント	49
■ クロックスピードの選択	49
■ LCD画面白黒反転	50
日本語入力	51
■ 文字をタイプするには	51
■ かな入力のしかた	52
■ ローマ字入力のしかた	54
■ 漢字を入力する	55
■ コード入力モード	55
チャプタ 4 電源	56
ACアダプタの仕様	57
■ ACアダプタを接続する	57
バッテリーで動作させる	59
■ 充電LED	59
■ バッテリーパックの充電モード	59
■ バッテリーの放電の状態を知る	60
■ バッテリーのパワーを節約する	60
■ サスペンド・レジューム機能を使う	61
■ バッテリーを交換する（バッテリーパック）	61
チャプタ 5 システムコンフィグレーション	63
システムコンフィグレーションについて	64
システムコンフィグレーションをスタートさせる	65
パワーマネージメントメニューをスタートさせる	73
チャプタ 6 オプションデバイスを装着する	79

## 目 次

拡張RAMモジュール	80
■ 拡張RAMモジュールを装着する	80
外部キーボード	82
■ 外部キーボードを接続する	82
外部CRTモニタ	83
■ CRTモニタを接続する	83
ICカード (PCMCIAカード)	84
■ PCMCIAについて	84
■ PCMCIAカードの装着	84
■ PCMCIAカードの取り外し	85
■ ソフトウェアドライバインストール	86
チャプタ 7 故障かな?と思ったら	87
トラブルとその対策	88
■ 電源スイッチを入れても動かない	88
■ 画面に何も表示されない、または、見にくい	88
■ HDDから立ち上がらない	88
■ フロッピーディスクの内容が読み書きできない	89
■ 押したキーと違う文字が表示される	99
■ カーソルが動かず画面が移動する	89
■ いきなり画面が暗えた	89
■ 印刷出来ない	90
■ 外部マウスが動作しない	90
■ ビープ音が鳴っている	90
■ 表示される日付や時刻が正しくない	90
■ 充電表示用LEDが点灯しない	91
■ サスペンド/レジュームできない	91
チャプタ 8 こんなことをしたい	92

# 目次

システム全体	93
■ スピーカから音が出ないようにしたい	93
■ サスペンド・レジューム機能を使いたい	93
■ サスペンド・レジューム機能を使いたくない	93
■ CPUのスピードを遅くしたい(一時的)	94
■ CPUのスピードを遅くしたい(スタート時いつも)	94
■ 時刻・日付を修正したい	94
画面関連	95
■ LCD表示の反転をしたい	95
■ CRTとの同時表示をしたい	95
■ CRTとの同時表示をしたくない	95
Appendix A システムの仕様	96
Appendix B ユーティリティとドライバソフト	99
ディスプレイ関連	100
■ 表示切り替えプログラム	100
■ Windowsディスプレイドライバのインストール	100
ICカード関連	101
■ CardSoftインストール	101
パワーセーブ関連	102
■ POWER. EXE	102
■ APM	102
■ PMEXT. SYS	102
Appendix C システムメモリマップ	104
Appendix D システムI/Oマップ	105

## 重要なお知らせ

このユーザズガイドに含まれる情報は事前にお知らせすることなしに変更される場合があります。  
本製品ならびにソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響についてはいっさい責任を負いかねますのでご了承ください。  
本製品およびソフトウェアの仕様は予告なしに変更することがあります。

## 著作権についてのお知らせ

本ガイドのすべての内容は著作権によって保護されています。本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright (C) 1993, 1994 株式会社ノーテック  
神奈川県横浜市中区太田町4-5-5  
横浜馬車道ビル

本ガイドにおいて説明されている各ソフトウェアはライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

Microsoft®のMS-DOS®Version 8.2/V, 5.0/Vは、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下MS-DOSと省略します。

Microsoft®のWindows® Version 3.1は、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下Microsoft Windows又はWindowsと省略します。

SystemSoft®は米国システムソフト社の登録商標です。

Maximizer, Any Key Resume, CARDSOFT®は、米国システムソフト社の登録商標です。

PS/2®は米国IBM社の登録商標です。

PCMCIA®は米国PCMCIA社の商標です。

SLエンハンスド4045X, DX2, DX4は米国インテル社の登録商標です。以下486SX, DX2, DX4と省略します。



---

## はじめる前に

ソーテック **WinBook** コンピュータをお買い上げいただきまことにありがとうございました。ソーテック **WinBook** コンピュータはデスクトップコンピュータに匹敵する機能をA4サイズのなかに凝縮したコンパクトで多機能なノートブックコンピュータです。

このガイドはソーテック **WinBook** コンピュータをどのように使い、維持するかについて説明しています。コンピュータをご使用になる前にどうぞ最初のセクションを注意深くお読みください。このセクションの終りにはこのガイドの残りの部分でカバーしている各項目についてあなたの経験の状況に応じてどのように進めばよいかを説明しています。

### このセクションでは、...

- **WinBook** の標準機能
- **WinBook** システムに含まれているもの
- 取り扱い上の注意
- さあ、はじめましょう
- ガイドの使い方
- 困った時には

---

## WinBookの標準機能

- 486SXまたはDX2またはDX4マイクロプロセッサ搭載
- 内蔵RAMは標準8MB
- 8.4インチの9.4インチ白黒LCD、256色DSTN9.4インチカラーLCD、256色TFTカラーLCD、256色DSTN10.4インチカラーLCDの4種類
- LEDによる各種動作モード表示
- マルチ周波数モニタなどを接続時に、より高解像度のWindows表示がCRT上に可能
- 3.5インチ3モード内蔵フロッピーディスクドライブ
- リトラクタブルマイクロロックボウル
- ACアダプタ、ACケーブル
- 取り外し可能な250MB又は340MBハードディスクドライブ
- 2枚まで装着可能な拡張RAMモジュール
- 2枚まで装着可能なICカード用スロット

## WinBookに含まれるもの

### ■ハードウェア

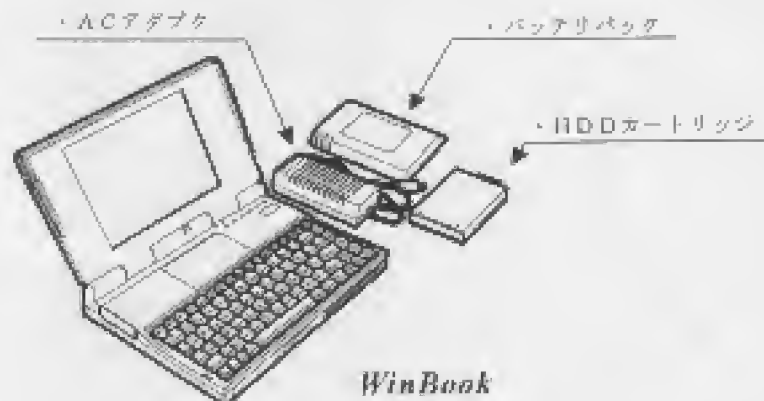
WinBookノートブックコンピュータを構成するために以下のようなハードウェアとアクセサリが含まれています。

- WinBookコンピュータ本体
- 取り外し可能なハードディスクユニット（本体に装着されています。）
- 取り外し可能なバッテリーパック（本体に装着されています。）

#### 注意

バッテリーパックは出荷時に絶縁紙をはさんで、本体に装着されています。チャプタ4のバッテリーパックの着脱の項目をお読みのうえ、バッテリーパックを取り外して絶縁紙を取り去り、再び装着してください。

- ACアダプタ電源とACコード
- 保証書
- ユーザ登録カード
- テクニカルサポートFAXシート



チャプタ1ではこれらの品々の簡単な使い方について説明しています。チャプタ2、3そして4にすずめばさらに詳しいコンピュータの各部についての説明を知ることができます。

## ■ソフトウェア

下記3種類のユーティリティとOSが添付又はHDDへインストールされています。

- リファレンスディスク

ICカードを使用するため、スリCDの表示を見易くするためや、CR下の高解像度表示をサポートするための小さなユーティリティが用意されています。Windowsインストールバージョンではこれらはすでにハードディスクにインストールされています。使用方法はA P P E N D I X Bに記述してあります。

- MS-DOS、オペレーティングシステム（HDDインストール済）

このプログラムにより、基本的なコンピュータの操作つまり、情報をディスクに書きたり新しいディスクを使用出来るよう準備することなどを行うことができます。MS-DOSはまたあなたが購入するであろう他のプログラムを実行させる機能を持ちます。その他のオペレーティングシステムをコンピュータに組み込まない限り、コンピュータをスタートさせる度にいつもMS-DOSを使用することになります。

- マイクロソフトWindows（HDDインストール済）

グラフィカル・ユーザインターフェース。これはDOSのもとで動作し、各種の用途に使用されます。マイクロソフトWindows（以下Windowsと略します）により、アプリケーションの操作や、起動が簡単になり、同時にいくつかのアプリケーションを走らせることが出来るとともにディスク上のファイルの構成を管理することができます。

## ■書類関連

添付されているガイドには3冊のブックWinBookコンピュータをスタートさせ、基本的な使い方を知るために必要な情報が含まれています。

- WinBookユーザーズガイド（このガイドです。）

このコンピュータの起動方法、手入れ、おもな部品やユーティリティについて説明しています。またオペレーティングシステムの主な使い方についても説明しています。

- MS-DOSユーザーズガイド

MS-DOSの初歩的動作、コマンド、機能について説明しています。（おもなDOSの機能についてはこのセクションの終りに説明しています。）

- マイクロソフトWindowsユーザーズガイド

基礎から高度な使い方について説明しています。Windowsのアプリケーションを使う前に、このガイドの基礎の項目を読まれることは大変よいことといえます。なぜならWindowsに対する操作はWindowsのアプリケーションの操作にも多くの共通点が存在するからです。（このセクションの終りにWindowsの主な機能について説明しています。）

## ■取り扱い上の注意

WinBookシステムは高品質の材料から組み立てられています。しかしながら、大きなシステムにくらべて小型軽量のこのシステムはよく持ち運ばれて使用されることと想います。この点からみてあなたのデータが失われたりシステムがダメージを受けたりしないよう、以下に説明する各項目についてとくに注意を払ってください。

- コンピュータを落下させないでください。また重いものをコンピュータの上にのせないでください。
- どうしても必要であるとき以外は、コンピュータの動作中、特にハードディスクやフロッピーディスクが動作中にはコンピュータを移動させないでください。また電源オフ直後10秒程度も移動させないでください。（ハードディスクが完全停止するまで）
- ACアダプタを使用しているとき、電圧が100〜240Vの範囲であることをおたしかめください。このことは海外に持ち運んで使用したときに特に重要な項目です。電圧電圧がこの範囲を超えている場合にはけっしてACアダプタを差し込まないでください。
- コネクタ類をつけたり、はずしたりするときにはその前にコンピュータの電源をオフしてください。
- 直射日光の当たるところで長時間コンピュータを使用しないでください。高湿度の場所（20〜80%の相対湿度）やほこりの多い場所または濡れた手でコンピュータを使用しないでください。
- 洗剤の入ったものや目の荒い布などで、ディスプレイの表面を拭かないでください。
- 振動を発生するもの、磁界を発生するもの、有機溶剤、腐蝕性のガスの近くにはコンピュータをおかないでください。保管出来る温度の範囲は-10度から60度までです。
- ACアダプタはソーテックWinBookコンピュータ以外には使用しないでください。
- ACアダプタのケースは分解しないでください。このACアダプタは破損したり、故障したときに修理するため分解することはできません。
- ACアダプタのコードを持ってひっぱらないでください。ACアダプタを脱着するときにはケーブルのプラグを持って行ってください。
- ACアダプタを温度、湿度の大きく異なるところにさらさないでください。
- ACアダプタをほこりや水気のあるところにおかないでください。また腐蝕性ガスのあるところつまり、有機溶剤などのあるところにおかないでください。
- ACアダプタを熱の発生する物のそばにおかないでください。また直射日光のあたる場所に放置しないでください。
- ACアダプタをなげたり、落としたりしないでください。また上に何ものせないでください。
- もし、ACアダプタから何かげらような臭いがしたり、ACアダプタの表面が大変熱いときには直ちにACコードを抜いてください。

LCD (液晶ディスプレイ) の表面についたごみを取り除く場合にはやわらかい布を使って、注意深く拭いてください。 最寄りのコンピュータショップには画面を拭くために専用につ作られた布が販売されていますので、これを利用することもできます。

フロッピーディスクを挿入する場合には市販されている、3.5 インチタイプの従式のクリーニングディスクをお求めのうえ行ってください。

以下のソーテックの部品は定期的に交換していただく必要があります。

- 充電式バッテリーパック。 充電を行うことができなくなったときに交換します。(チャプタ4に詳しい説明があります。)
- リチウムバッテリー。 このバッテリーは内部の時計、カレンダーに電源を供給しています。 コンピュータの電源をオフさせたあと、CMOS バッテリーエラーが次の電源オン時に表示されるようになったら、お求めの代理店に電池を交換するようご指示ください。

**警告**

専用のバッテリーパック以外のものをコンピュータを動作させるために使用すると電池が破裂するなどの危険があります。 ソーテックの保証する **WinBook** 専用バッテリーパックをお求めの上交換してください。

**Caution:**

There is a danger of explosion if you insert a battery other than the battery intended for use with this computer. Replace only with an **WinBook** battery authorized by SOTEC.

## さあ、はじめましょう

WinBookに付属してくる各ガイドにはコンピュータをセットアップし、操作するために必要なすべての情報が含まれています。このガイドのチャプタ1ではWinBookを初めて使用する場合にどのようにしたらよいかを以下の各ステップにて説明しています。

### 1 システムを構成する各部に慣れる

チャプタ1は、コンピュータの各部がどのように操作されるべきかを知る必要のある概要を含んでいます。

### 2 バッテリパックをコンピュータに組み込む

WinBookコンピュータはAC電源またはバッテリー電源のいずれでも動作させることができます。製品出荷のとき、バッテリーパックは充電された状態ではありません。充電するには一度装着されているバッテリーパックを取り外し、本体とバッテリーパックの端子のあいだに挟まれている絶縁紙を取り除いてから再びバッテリーパックを装着してください。

充電はACアダプタが接続され、コンピュータが使用していない状態で、約2時間で完了します。電池の装着方法はチャプタ1の各部の概要の後に説明されています。

### 3 システムの時刻と日付を設定する

チャプタ1の終りにシステムの時間と日付を設定する方法を説明しています。

これらのステップをへて、アプリケーションソフトウェアをシステムへインストールする準備が整います。

以下の表は始めるときにどこに説明があるかを知るための手掛かりとなります。あなたが経験のあるユーザの場合でも、Xマークのついている項目（経験者向け）は確認していただけるようお願い致します。

作業項目	説明の場所	経験者のかたは
基本的なシステムの構成部品の概要	チャプタ1	
バッテリーパックの装着	チャプタ1	X
コンピュータの起動とセットアップ	チャプタ1	X
データ格納メディアの取り扱い	チャプタ2	
キーボードを使う	チャプタ3	X
バッテリーを使う	チャプタ4	X
追加オプションを装着する	チャプタ6	X

## 本ガイドに出てくる単語の字体の意味

diskcopy	この字体で書かれている文字は示されているとおりにキーボードからタイプされなければなりません。特に指示がなければ大文字、小文字の区別はありません。どちらでも使用することができます。
System Configuration	この字体で書かれた文字はコンピュータの画面に表示されているものであることを示します。
< >	この括弧でくくられた文字列はその文字の示すようなキー操作を示します。たとえば< R R Y Y >は" R R Y Y"と印字されたキーを押すことを示します。
< C Y Y > + < C >	キーボードのキーはこの字体で記述されています。複数のキーを組み合わせて押す時には+でつなげています。この例では" C Y Y"と印字されたキーと" C"と印字されたキーを同時に押す"ことを意味しています。



## システムソフトウェア

WinBookシステムのMS-DOS、Windowsのどちらも詳細に説明されたマニュアルが別に添付されています。ここではこれらのソフトウェアについて簡単な理解を得られるような概要を説明しています。

### ■MS-DOS

MS-DOS（またはMicrosoft Disk Operating System、一般的にDOSと呼ばれています。）はコンピュータの電源をオンさせる際に通常スタートさせるプログラムです。このオペレーティングシステムはその外の子すべてのプログラム（Windowsを含みます。）のためにコンピュータと直結した基本的な機能を管理するものです。

もしあるアプリケーションがあるデータをハードディスクもしくはフロッピーディスクから読み込む必要ができた場合、また画面に文字（テキスト）やグラフィックを表示したいとき、MS-DOSがその目的に使用されます。

また、MS-DOSを直接使用することもできます。数種類のコマンドを“DOSプロンプト”（一般的にC: >）においてあなたはタイプすることができます。ほとんどのコマンドはハードディスクあるいはフロッピーディスクに対してなにかを行う命令です。以下のようなことができます。

- ディスクの内容を表示させる。
- ディスクのファイルを管理する。（コピー、消去、名前変更）
- システムのメモリを管理する。

もし、Windowsのアプリケーションのみを使用するのなら、あなたがDOSのコマンドを直接触る機会は大変少ないでしょう。DOSのアプリケーションを使用する場合でもそれらのアプリケーションをスタートさせること以外にDOSコマンドをタイプすることは少ないでしょう。またアプリケーションのなかで、それら自身があなたのデータを保存したり、コピーしたりするのに使われることがあります。

さらに詳しいことを知りたい場合にはMS-DOSのマニュアルをご覧ください。

### ■Microsoft Windows

WindowsはDOSのもとで動作します。これは一般的なアプリケーションプログラムではなく、オペレーティングエンバイロメント（操作環境）といわれるものになります。Windowsの目的はアプリケーションを使うのをより簡単にすることにあります。またDOSにはないいくつかの機能を露供します。

Windowsにおいてコンピュータの画面は“デスクトップ（机の上）”と呼ばれます。Windowsの名前はデスクトップ上で使用されるファイルやプログラムを含む、四角い額縁または窓（ウィンドウ）から由来しています。

それぞれのプログラムや、ファイルはデスクトップ上に“アイコン”と呼ばれるもので表現されます。マウスを使って各種の操作をアイコンに対して行うことができます。（Windowsではマウスの代わりにキーボードによる操作を行うこともできますが、その効率や、操作感はい

ものではありません。Windowsを使いこなすにはマウスか、トラックボールがぜひ必要です。たとえば、アプリケーションのアイコンにマウスのポインタ（矢印）を移動させ、マウスボタンを2回押す（ダブル・クリック）ことは、そのアプリケーションをスタートさせることを意味します。

あなたは同時に1つ以上のアプリケーションをそれぞれのウィンドウにおいて実行させることができます。最初はそれぞれのアプリケーションウィンドウは画面（つまりデスクトップ）いっぱいに広がっています。一番上にのっているものだけが見ることができます。しかし、あなたはこれらを小さくしたり、整列させたりすることができます。いちどきに1つのウィンドウをアクティブにすることができます。しかしその他へも簡単にクリックさせることでうつらることができます。

ファイルも他のアプリケーションの如くそれ自身のウィンドウにてオープンさせることができます。

その他のWindowsの特徴として、すべてのアプリケーションの基本的操作方法はすべて共通していることがあげられます。このことは1つのアプリケーションについてどのように作業するか習得すればその他にもまた適用することが出来るということを意味しています。おなじ理由で、Windowsのアプリケーションを走らせるまえにWindowsの基本を習得しておくことがもともと良いことであるといえます。

Windowsのさらに詳しい内容を知りたい場合は、フリーブック **WinBook** パッケージに付属するマニュアルを参照してください。

## 困った時には

このガイドを参照しても、ソーテック **WinBook** コンピュータに関する問題が解決しない場合には以下のテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

電話番号：045-661-7358

株式会社ソーテック テクニカルサポートセンタ

毎週 月曜日から金曜日の午前10時から午後4時まで（祝祭日をのぞきます。）

この番号にかけるときに以下の項目を準備されているか確認してください。

- どの代理店から購入されましたか？
- コンピュータのシリアル番号（製造番号）これはコンピュータの底面に貼りつけてある、ラベルに印刷してあります。
- 問題の出来るだけ詳しい内容
- コンピュータそのもの

その他の方法として、その問題の説明をこの製品に付属するテクニカルサポートFAXシート記入用紙に記入いただき、以下の番号までFAXで送付いただく方法もあります。

FAX番号：045-682-0656

株式会社ソーテック テクニカルサポートセンタ

また書面の郵送または物品の送付の宛て先は以下のところへお願いいたします。

なお、ご発送の際には必ず購入時と同じ梱包（梱包箱、パッキン）にてご返送願います。

郵便番号 231

神奈川県横浜市中区太田町4-5-5

横浜興業ビル

株式会社ソーテック テクニカルサポートセンタ

### 注意

HDDを修理する場合はドライブのみの修理若しくは交換となります。  
 記録されているアプリケーション、データ等の保証、修復はいたしかね  
 ますので重要なものについては必ずコピーをとるようお願いいたしま  
 す。

## チャプタ 1 第一段階

### このチャプタでは

- コンピュータの開け閉め
- 部品の概要、電源とマイクロプロセッサシステム
- マイクロトラックボールの出し入れ
- マイクロトラックボールのクリーニング
- コンピュータの起動
- 日付、時刻の設定
- コンピュータのリセット
- コンピュータのオフ

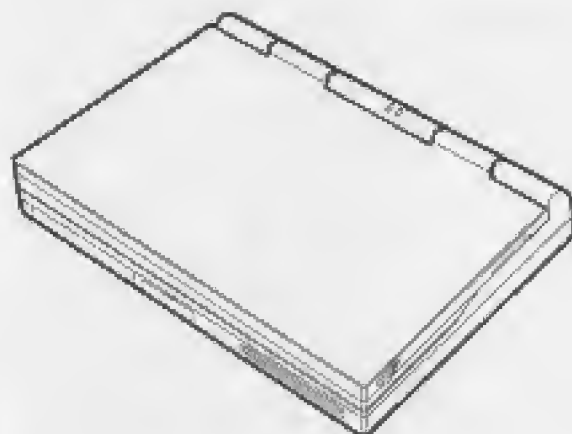
このチャプタはリーテック *WinBook* コンピュータの基本的構成品とどのようにプリンタや外部モニタのような周辺装置を接続するかについて説明しています。このチャプタの最後ではまず最初に必ず行わなければならない、いくつかの特別な段階の操作方法を含めたコンピュータのスタート方法について説明しています。

もし、その他のコンピュータを使ったことがある場合はたぶんこのチャプタのいくつかの項目は飛ばしたくなるでしょう。しかし、システムの構成品、起動、システムコンフィギュレーションの方法については一度目を通しておいってください。

## コンピュータの開け閉め

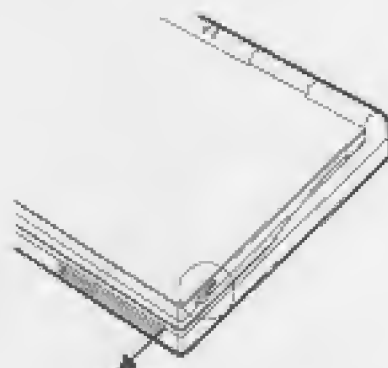
もし以前の項目で説明した注意点をお読みになっていない場合はこの先に進む前にどうぞ注意点をお読みになってください。

コンピュータを開けるには以下の絵のようにコンピュータをおいてください。

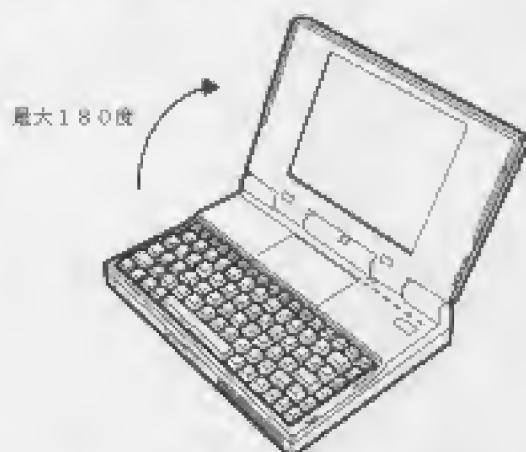


ここにはコンピュータの両端にスライド装置がそれぞれ1つずつあります。

- 1 コンピュータの前に向かって両方のスライド装置（イラストに示すように）をスライドさせます。



2. カバーをLCD画面の見やすい角度まで開きます。ACアダプタが接続されていない場合は180度まで開けることができます。

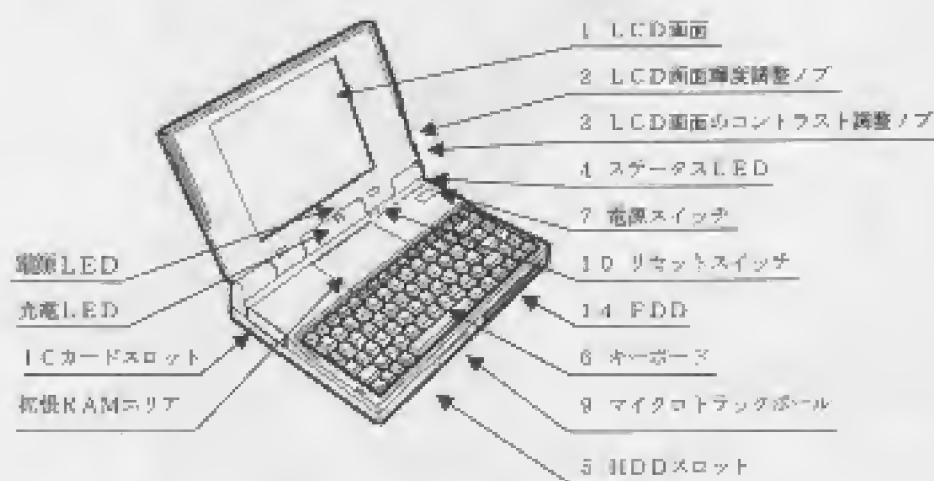


コンピュータを閉じるには単純にカバーをもとの位置にもどし、ラッチがかかるまで、やさしく押してやります。(もしカバーを閉じるときにコンピュータがオンの状態だったときはコンピュータは、後で説明するサスペンド状態に入ります。作業を続ける場合はカバーを開け、何かキーを押してやります。)

## WinBook各部の外観説明

コンピュータの制御やその構成品についての説明が以下の各ページに記されています。

### ■左前から






各LEDにはシンボルマークが刻印されています。各シンボルマークは以下の表のような対応となっています。それぞれのLEDの意味はのあと説明されています。

#### 注意

外観図は白黒LCDモデル、DSTNカラーLCDモデルのものです。  
「2SX/33CX」(TFDカラーLCD)モデルは、LCD画面の画面のコントラスト調整ノブがありません。

	充電状態
	電源状態
	HDD状態
	FDD状態
	CPU状態

	NUMロック状態
	CAPSロック状態
	SCRLロック状態

## 1 LCD画面

LCD画面には**WinBook**のモデルによってカラーと白黒のものがあります。LCD画面はLCDの背後にある照明により照らされ、コンピュータの使用中は通常点灯しています。電池の使用時間を引き伸ばすために指定した数分のあいだコンピュータが使用状態にないとき、自動的に照明装置を切ることができます。何かキーを押せばもとの使用出来る状態に戻ります。（チャプタ5の“システムコンフィグレーション”の項目を併せてお読みください。）

### 2 LCD画面の輝度調整ノブ

LCD画面の明るさを調整するために使用します。見やすい明るさに調整してください。ただし、明るくすればするほど電池を消耗します。

#### 注意

J2SX/J3CX（TFTカラーモデル）のLCD画面輝度  
上記モデルはLCD輝度調整ノブにてLCD画面の輝度を調整できますが調整範囲をそれ程広くとっていないため、十分明るい環境では変化をあまり感じられない場合があります。このケースでは消費電力を抑えるため、輝度を最低にしておく事をお勧めします。

#### 注意

J2SX/J3CX（TFTカラーモデル）のLCD画面にて小さな点が消えないものがありますが、これは故障ではありません。

#### 注意

J2SX/J3C（DSTNカラーモデル）のLCD画面輝度  
上記モデルはバッテリー動作中は輝度が最低に設定されますのでLCD画面の輝度調整ノブでのコントロールはできません。

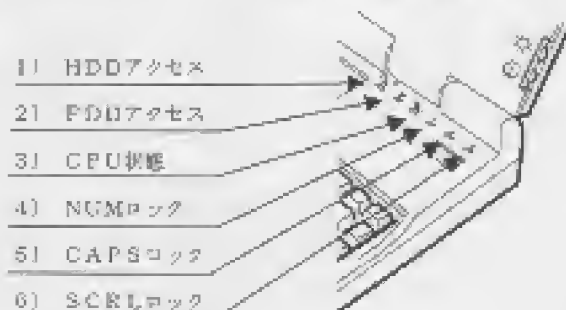
### 3 LCD画面のコントラスト調整ノブ（J2SX/J3CXには付いていません。）

LCDのコントラストを調整するために使用します。見やすいコントラストに調整してください。



## 4 ステータスLED

ここに並ぶ数個のLED（発光ダイオード）はWinBookの動作状態を示すために設けられています。



## 1) HDDアクセス

HDDの使用中にこのLEDが点灯します。

## 警告

このLEDが点灯中にコンピュータの電源をオフにしてはいけません。

## 2) FDDアクセス

FDDの使用中にこのLEDが点灯します。

## 3) CPU状態表示

CPUのスピードに応じてLEDの色が変化します。緑色に点灯しているとCPUは通常のスピードで動作しています。パワーセーブ機能あるいはCPUスピードをLOWスピード（J25X/53は6、25MHz、J2DX2/50Ciは25MHz、J2DX4/100Ciは50MHz）に設定すると、オレンジ色に点灯します。

## 4) NUMロック

NUMロック状態にあると、このLEDが点灯します。エンベデッドキーボード部分がこの状態で、使えるようになります。（チャプタ3を併せてお読みください。）

## 5) CAPSロック

CAPSロック状態にあることを示します。このとき、アルファベットキーはソフトキーを押さずに大文字を入力することができます。

## 6) SCRLロック

SCRLロック状態にあることを示します。このモードにおける使い方はアプリケーションプログラムによって異なります。

## 5 HDDスロット

HDDカートリッジがここに収納されます。復元する、HDDカートリッジ取り出しボタンを押すことにより、HDDカートリッジを前に引き出して、取り外すことができます。

**警告**

コンピュータがオンになっている間はHDDカートリッジを取り外さないでください。

**6 キーボード**

キーボードに関してはチャプタ9にある説明をお読みください。

**7 電源スイッチ**

このボタンを押すことで、コンピュータの電源をオンオフさせることができます。

**警告**

HDD（ハードディスク）や（FDD）フロッピーディスクを使用中に電源をオフにしたり、コンピュータを動かしたりしないでください。電源をオフにした後、再び電源を投入する場合は15秒以上待つてください。

**8 拡張RAMエリア**

このカバーを持ち上げることで、拡張RAMモジュールを装着あるいは取り外すことができます。詳しいその方法についてはチャプタ8の説明をお読みください。

**9 マイクロトラックボール**

マイクロトラックボール（以下MTBと省略します、）はマウス設置の代わりにプログラムの中で使用することができます。使用するときには前に引き出してください。詳しい使い方についてはこのチャプタの後半をお読みください。

**10 リセットスイッチ**

システムをリセットする場合にこのチャプタの後半で説明しているようにこのボタンを押します。この動作により、あなたが使用しているすべてのどんなプログラムもデータをセーブすることなしに終了し、システムはDOSを再ブートします。一般的にシステムが”フリーズ（凍結してしまう）”状態のときか、キーボードからの入力に対して反応しなくなったときにのみ使用します。

**11 電源LED**

コンピュータの電源がバッテリーのみで使用時にオン状態にあると、緑色に点灯します。バッテリー使用時にバッテリーバックの残量が少なくなると、オレンジ色に点灯変化します。ACアダプタ入力が接続されている場合、黄色に点灯します。システムがサスペンド状態にあるとLEDはその時の電源条件の色にて点滅します。

**12 充電LED**

このLEDは現在の電池の充電の状態について表示を行います。

電池が充電中はオレンジ色に点滅します。

電池が満充電になると、オレンジ色に点灯します。

充電中になんらかの異常が発生してそれ以上充電が継続できなくなった場合は消灯します。また電池のみでACアダプタから給電されていないときも消灯しています。

### 13 PCカードスロット

このPCカードスロットにPCMCIA規格準拠のPCカードを装着して使用することができます。PCMCIAカードを使用するときにはソケットサービス、カードサービスを始めるプログラムをインストールする必要があります。詳しくはアダプタGの説明をお読みください。

### 14 FDD

ここから3.5インチフロッピーディスクを挿入します。フロッピーディスクを抜くときにはFDDの左側にあるボタンを押してください。

#### 警告

FDD使用中LEDが点灯している間はディスクを取り出さないでください。

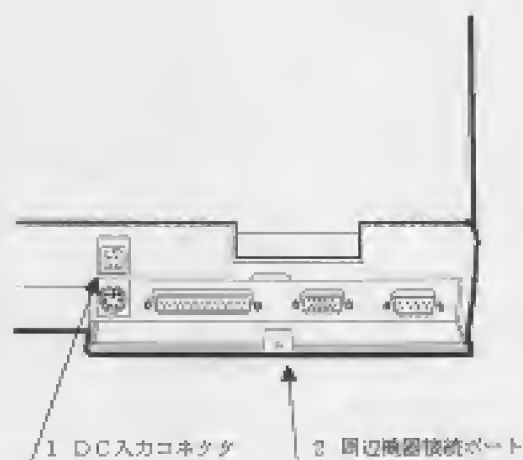
## ■後ろ右から

### 1 DC入力コネクタ

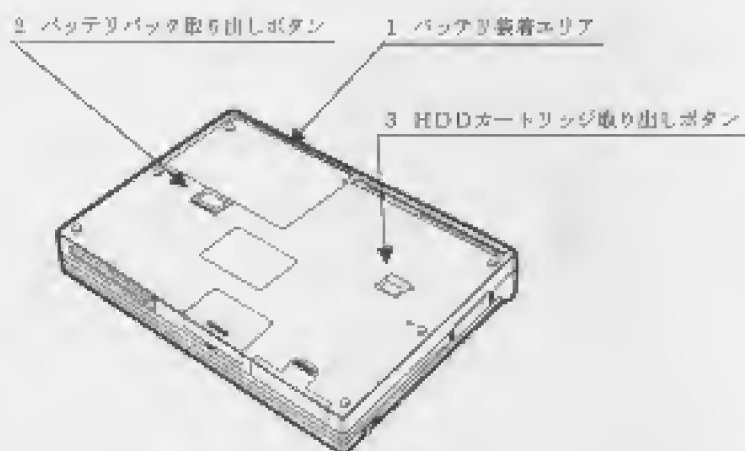
ACアダプタをここへ接続します。

### 2 周辺機器接続ポート

周辺機器を接続する各ポートがこのふたの中にあります。ノブを下げながら、ふたを開けてください。



■底面から



1 バッテリー装着エリア

このエリアにバッテリーパックを装着します。

2 バッテリーパック取り出しボタン

バッテリーパックを取り出すときにこのボタンを押します。

**警告**

コンピュータの動作中にバッテリーパックを取り出さないでください。

3 HDDカートリッジ取り出しボタン





HDDカートリッジを取り出すときにこのボタンを押します。

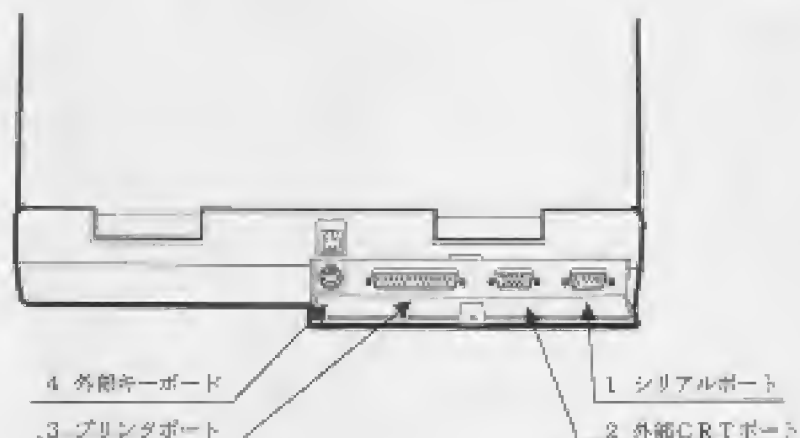
**警告**

コンピュータがオンしている間はHDDカートリッジを取り出さないでください。

## ■周辺装置への接続部

周辺機器の接続方法についてはチャプタ6をお読みください。各ポートにはシンボルマークが刻まれています。各シンボルマークの意味は以下に示すとおりです。

	シリアルポート
	外部CRTポート
	プリンタポート
	外部キーボード・マウスポート



### 1 シリアルポート

シリアル接続のケーブルを経由して、外部モデムなどのシリアル周辺機器を接続します。このポート (COM PORT A) は通常では "COM1" (アプリケーションが指定するシリアルデバイス番号のこと) に設定されていますが、チャプタ6で説明するようにシステムコンフィグレーションにてCOM1からCOM4まで設定することができます。

### 2 外部CRTポート

外部CRTを接続します。

### 3 プリンタポート

パラレルプリンタをプリンタケーブルを経由して接続することができます。このポートは通常では "LPT1" (シリアルポートと同様なポートの設定番号) に設定されていますが必要があればチャプタ6で説明するようにシステムコンフィグレーションにてLPT1からLPT3まで設定することができます。

## 4 外館安一司一ト、マウズボート

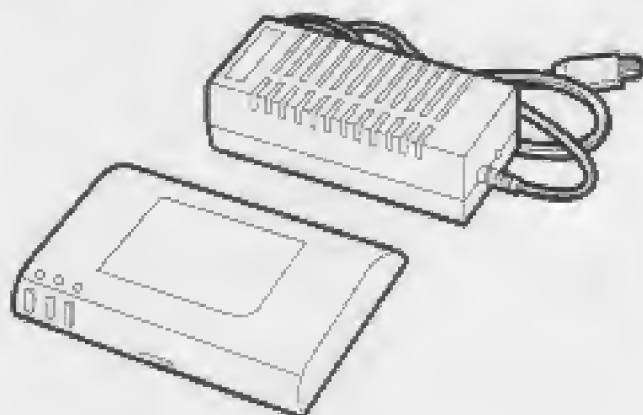
外部用PS/2キーボードを接続することができます。また別途市販のキーボード・マウスアダプタを使用すればPS/2マウスを接続することもできます。チャプタ6の説明をお読みください。

## 5 1 応答レポート

PCMCIA規格タイプ2の1枚カードを2枚まで装着することができます。タイプ3のカードの場合は下のスロットに1枚装着することができます。チャプタ8の説明をお読みください。

## 電源

ソーテック *WinBook* コンピュータは、専用 AC アダプタまたは、充電可能なバッテリーパックによって動作します。



コンピュータがオフ状態で、ACアダプタが装着されてから、約2時間で、バッテリーパックは満充電の状態になります。

ACアダプタとバッテリーパックの使用法の詳しい内容はチャプタムをお読み下さい。

*WinBook* コンピュータはこのほか内部にリチウム電池を装着しています。この電池は

*WinBook* の時計、カレンダーとシステムコンフィグレーション内容を保持するために使用されています。

---

## マイクロコンピュータシステムについて

ソーテックWinBookコンピュータは、80486SXまたはDX2またはDX4マイクロプロセッサを搭載しています。クロック速度は選択できます。遅いクロックは電池の使用時間をより長くするために選択することができます。

システムコンフィグレーションプログラムにより、CPUのクロックスピードを変更することができます。"Base Speed"の項目を選択し、上下カーサ移動キーを押すことで、FAST (速い) またはSLOW (遅い) を設定することができます。

また、一時的にクロックスピードをシステムコンフィグレーションを使用することなしに選択することもできます。単に<Function>キーを押してください。(クロックスピードはシステムコンフィグレーションで設定していたクロックスピードに対してもう一つの速度に変化します。)



---

## マイクロトラックボール

ソーテック *WinBook* コンピュータはマイクロトラックボール（以下MTBと省略します）を付属しています。MTBは*WinBook* コンピュータの中に収納された状態で出荷されています。使用するにはMTBをコンピュータの前に引き出してから使用してください。

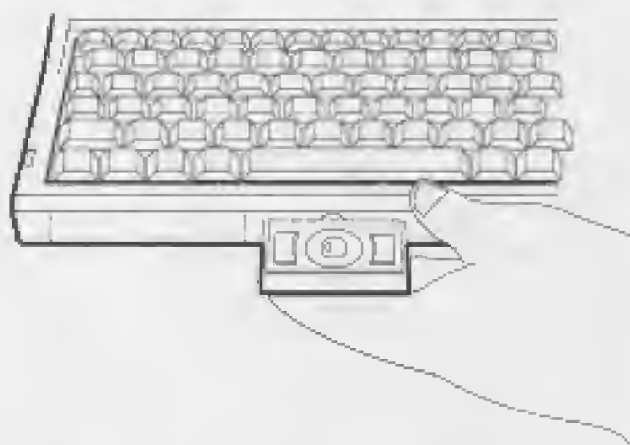
マウスを使用するプログラムの場合には、画面上のポインタを希望の位置に移動するよう、MTBのボールを上下左右に動かしてください。MTBのボールの左右のボタンはマウスの左右のボタンにそれぞれ相当します。

トラックボールはどちらかの手の親指で操作します。好みによってどちらかの中指、人差し指で操作することもできます。マウスの場合と同様に、ポインタを動かしたい方向にトラックボールを動かします。

トラックボール（マウス）の使いかたについてはそれぞれのアプリケーションプログラムのガイドを参照してください。

## ■マイクロトラックボールの引き出し

コンピュータの前面中央にあるMTBを引き出します。MTBの底面中央にあるギザギザに指をあてて前に引き出します。トラックボールは引き出す、引き出さないの状態にかかわらず、コンピュータに認識されています。



MTBはマイクロソフトのシリアルマウスと互換性があります。外部キーボードポートにキーボード・マウスアダプタを經由してPS/2マウスを接続する場合、または外部シリアルポートにマウスを別途接続する場合はシステムコンフィグレーションプログラムを呼び出してCOMポートBはDisableにしてください。チャプタ5の説明をお読みください。

### ノート

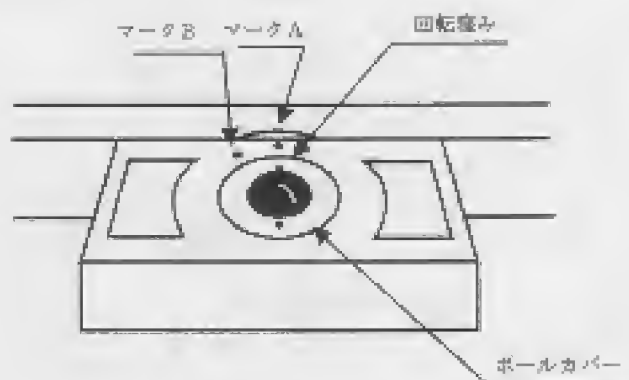
MTBはマイクロソフトシリアルマウスにコンパテブルです。  
WinBookの第2シリアルポートに内部的に接続されています。このMTB専用ポート (COM PORT B) はシステムコンフィグレーションプログラム (チャプタ5をお読みください。) で、特に必要のない限り、COM1かCOM2 (デフォルト) にセットしておいてください。COM3、COM4またはDISABLEに設定しておくと、マウスドライバがMTBを認識できなくなります。逆にMTB以外のシリアルマウスなどを接続する場合は必要に応じてシステムコンフィグレーションにてDISABLE (禁止) することもできます。

## ■マイクロトラックボールのクリーニング

WinBookのMTBも他のトラックボールやマウスと同様に長時間使用しているとボールの受動部が汚れてきます。その場合のクリーニング方法について説明します。

- WinBookの電源をオフにします。
- MTBのボールカバーをボールペンの先等にて回転座みをマークAからマークBに回転移動します。

- ボールカバーとボールが外れますのでMTB内部の受動部を絶縁等にて傷つけずにクリーニングします。
- 組み立てる場合は、まずボールをセットしてその上からボールカバーを被せ回転部をマークBからマークAへクリック感があるまで回転移動させます。



## コンピュータをスタートさせる

コンピュータをオンする前に周辺機器をすべて接続しておかなければなりません。周辺機器の解説についてはチャプタ4の説明をお読み下さい。

このセクションでは以下の段階を知ることができます。

- ソーテック **WinBook** コンピュータを最初に使用する時
- 内部時計、カレンダーの時刻、日付を設定する時

### ■ ここで必要なもの

- ソーテック **WinBook** ノートブックコンピュータ
- 専用ACアダプタ
- 付属のACコード

### ■ コンピュータをスタートさせる

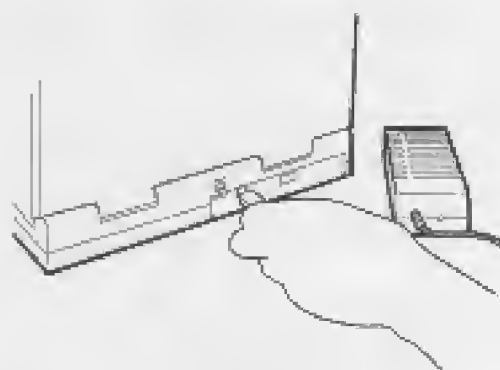
ACアダプタを接続します。

コンピュータの出荷時にはバッテリーパックは空の状態になっています。ですからコンピュータをスタートさせるときにはACアダプタを用いる必要があります。（バッテリーパックについての詳しい内容はチャプタ4の説明をお読みください。）

#### 注意


バッテリーパックは出荷時に絶縁紙をはさんで、本体に装着されています。チャプタ4のバッテリーパックの着脱の項目をお読みのうえ、バッテリーパックを取り外して絶縁紙を取り取り、再び装着してください。

ACアダプタのケーブルをコンピュータの後ろにある、DC INコネクタに差し込みます。ACコードの一端をACアダプタに差し込み、もう一端をコンセントに差し込みます。（100Vから240V単相の変換）

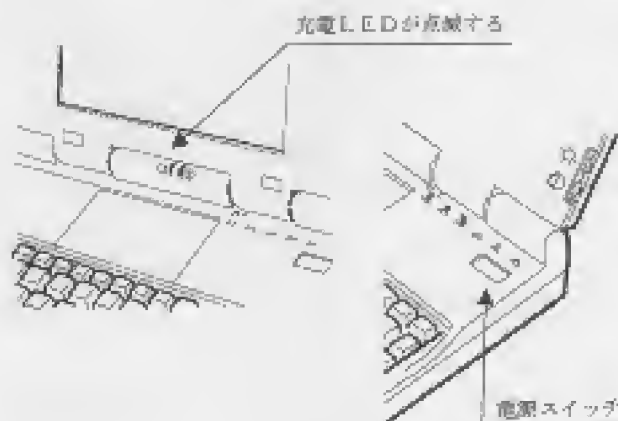


### ■コンピュータの電源を入れる

もし、まだコンピュータを開けていなければコンピュータのカバーの問題にある。喚起をコンピュータの前に向かってスライズさせながらカバーを持ち上げ開けてください。

もし、バッテリーパックがコンピュータにすでに装着されている場合はコンピュータの中央奥の  のLEDがオレンジ色に点滅するはずで、これが点滅していることはつまり、バッテリーパックが装着され、充電が行われていることを示します。（チャプタ4の充電の項目も併せてお読みください。）

キーボードの右側上部にある、電源SWを押して、はなします。（同じ動作で、コンピュータの電源をオフさせることができます。）



**警告**

ハードディスクまたはフロッピーディスクドライブがアクセス中である時には絶対に電源をオフさせないでください。電源をオフしたあとは少なくとも15秒以上再度オンさせるまで、お待ちください。

故障後、システムは自己診断機能を自動的に走らせ、その結果を画面に表示します。その後システムは“DOSプロンプト”を画面に表示させた状態になります。プロンプトについて表示され、点滅しているシンボルは“カーソル”とよばれ、あなたのタイプする文字がづぎにそこに表示されることを示しています。

(3)

もし必要なら、LCD右側にあるノブを回してコントラストと輝度を見やすいように調整してください。

## ■内部カレンダー、時計を設定する

ノートブックWinBookコンピュータは内部に時計、カレンダー機能をもち、常時これが時を刻んでいます。この情報はデータファイルを作成したり、変更したときやそのほかに利用されます。一番最初にコンピュータをスタートさせたときには日付・時刻は合っていません。日付・時刻を設定するにはDOSコマンドのDATEとTIMEを使用してください。（システムコンフィグレーションにて日付・時刻を合わせることもできますが、DOSコマンドを使用したほうがより簡単です。）

以下の各ステップは内部時計・カレンダーを設定する方法を示しています。DOSプロンプトにてはじめてください。

- 1) DATEとタイプして<Enter>を押してください。

現在の日付が表示され、あなたが新しい日付をタイプするのを待っています。

—英語DOS—

Current date is 01-01-1993

Enter new date (mm-dd-yy):

—日本語DOS—

現在の日付は 1993-06-19 (日) です。

新しい日付を入力してください。(yy-mm-dd):

もし正しい日付が表示されている場合には<Enter>を押して、本コマンドを終了させてDOSプロンプトに戻します。もしシステムの日付を変更するなら、

- 2) 現在の日付をタイプして<Enter>を押します。

月、日付には1または2ケタの数字を、年には画面下2ケタの数字をタイプしてください。それぞれの間にはハイフンをタイプしてください。

- 3) TIMEとタイプして<Enter>を押してください。

現在の時刻が表示され、新しい時刻をタイプするのを待っています。

—英語DOS—

Current time is 11:23:02

Enter new time:

—日本語DOS—

現在の時刻は 19:28:05.06

新しい時刻を入力してください。

もし正しい時刻が表示されている場合には<Enter>を押して、本コマンドを終了させてDOSプロンプトに戻します。もしシステムの時刻を変更するなら、

- 4) 現在の時刻をタイプして<Enter>を押します。

時間、分、秒をそれぞれ2ケタの数字でコロン“:”で区切りながらタイプしてください。（24時間表記）

## コンピュータをリセットする

もしコンピュータが全く同様の反応も示さなくなってしまった時にはシステムの電源をオフにし、再度オンにする代わりにリセットをかけることができます。リセット操作はそのかわり、システムがサスペンド状態にある時も含めて全てのRAMの一時的な記憶をすべて消去します。ですから重要なデータはあらかじめディスクにセーブしておくことをおすすめします。

MS-DOSにおいてはあなたはキーボードの<Ctrl>と同時に<C>を押す、または<Break>を押すことにより、プログラムの実行を中止し、MS-DOSのコマンドプロンプトに戻ることができます。エラーがおきてしまった場合、リセットをかける前にこの方法を一度試してみてください。

### 警告

リセットによる以外のいかなる方法によってもプログラムから抜け出すことができない場合をのぞいてリセットをかけないでください。一部のプログラムは新しいデータをセーブする場合、正規の方法でプログラムを終了させなければならないプログラムがあります。このようなプログラムを使用していてリセットをかけた場合はデータの損失につながる場合があります。

キーボードからコンピュータをリセットする場合は、<Ctrl>+<Alt>+<Del>の各キーを同時に押して下さい。

もし、キーボードが反応しない場合にはリセットボタンを押してください。まちがえてリセットが要らないように、このスイッチは意識的に押しにくいように設計されています。このスイッチを押す場合にはボールペンの先かクリップをまっすぐにした様なもので押して下さい。リセットをかけると画面は一時的に表示が消え、その後コンピュータはMS-DOSを再びロードします。(ハードディスクまたはフロッピーディスクドライブにMS-DOSが書き込まれている場合)



## チャプタ 2 ディスクドライブ

ソーテック *WinBook* コンピュータには2つのディスクドライブが装着されています。

- 2. 5インチ着脱可能なハードディスクドライブ
- 2. 5インチ3モードフロッピーディスクドライブ

### このチャプタでは

- ハードディスクドライブの手入れと取り扱い方
- フロッピーディスクドライブの手入れと取り扱い方

## ハードディスクドライブ

ソーテック **WinBook** コンピュータに装着されているハードディスクドライブは工場組立時にすぐに使用出来るように（パーティションとフォーマット）処理がされています。また、DOSと名付けられたサブディレクトリが作成され、DOSのファイル類がすでにコピーされています。

ソーテック **WinBook** コンピュータのハードディスクドライブは取り外しが可能です。将来さらに大容量のハードディスクドライブが用意されたときに交換することが可能です。また、別にハードディスクドライブを用意し、そこへ各々のアプリケーションを用意して必要に応じて交換したり、フロッピーディスクを経由し、データをコピーしてそのハードディスクドライブを安全のため、別の場所へ保管しておくなども可能です。

### 警告

ハードディスクドライブをなげたり、落としたりしてはいけません。また振動や、磁界の発生するもの（テレビやステレオのスピーカなど）の近くにおかないでください。

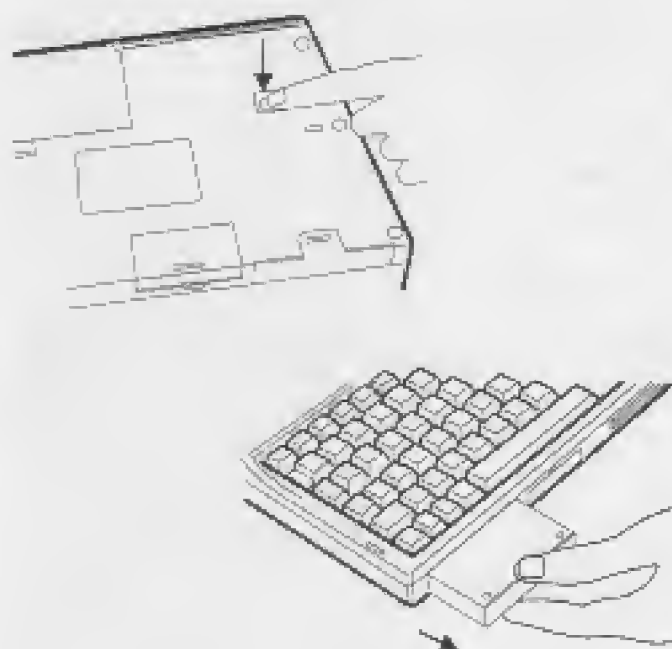
## ■ハードディスクを取り外す

### 警告

ハードディスクを取り外す、あるいは装着するまえに必ずコンピュータの電源がオフになっていることをお確かめください。サスペンド状態でもいけません。またソーテックの純正ハードディスクを御使用ください。

## ■ハードディスクドライブ（以下HDD）を取り外すには

コンピュータの電源をオフにしてください。（コンピュータはサスペンド・レジャー状態ではいけません。詳しくはチャプタ4の説明をお読みください。）コンピュータ底部にあるHDDカートリッジ取り出しボタンをしっかりと押し込んでください。さらにもう一方の手でHDDの下部の前面がわをもちながら、前に向かってゆっくり引き出します。（このときHDDを落としたりしないよう十分注意してください。）



## ■ハードディスクドライブを装着する

ハードディスクドライブ（HDD）を装着するには

- 1) コンピュータの電源をオフにする。（サスペンド・インジュームモードではいけません。詳しい内容はチャプタ4の説明をお読みください。）
- 2) HDDの装着スロットにHDDを静かにスライドさせながら挿入します。底面のHDDのイジェクトボタンがたいたいならなるまでゆっくり押し込みます。HDDは図に示すような方向にしか装着できません。もしHDDが簡単に挿入できないような時には決して力をこめてはいけません。もう一度正しい向きにHDDの向きを入れ替えてください。





ドライブを装着し終えたらシステムを使用するまえに必ずシステムコンフィグレーションを行わなくてはなりません。ハードディスクに関するセットアップは自動的に行うこともできますし、自分で設定することも可能です。詳細の設定方法についてはチャプタ5のHard Disk 1の項目をお読みください。

## フロッピーディスクドライブ

WinBook本体に内蔵されている、5インチフロッピーディスクドライブユニットは「2.5×3機種は2モード720KB/1、44MBですが「2DX2」と「2DX4」の場合は3モードにて動作可能で720KB/1、2MB/1、44MBにて動作します。詳しい使用方法につきましてはMS-DOS 6.2/Vのユーザズガイドをご参照ください。又、モードを変更する場合は、システムコンフィグレーションを変更する必要があります。詳しい設定方法についてはチャプタ5をご参照ください。

### ■フロッピーディスクの取り扱い方

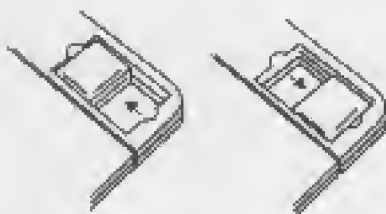
3.5インチフロッピーディスクは大変弱いものです。取り扱いにあたっては十分注意を払ってください。装着してあるフロッピーディスクを使用しつづける場合でも、コンピュータの電源をオフする時には必ずその前に3.5インチフロッピーディスクドライブ（以下FDDと省略）のイジェクトボタンを押してフロッピーディスクを取り出し、保存に適切な場所に保管して下さい。以下に示すのはフロッピーディスクの取り扱いに関する注意事項です。

テレビや、電機ホータのような電磁気を生ずる物のそばにおかないでください。	
特に直射日光の中のような直射日光にあたり、高温の場所におかないでください。湿度の高いところにおかないでください。	
内側の記録メディアに傷を付けるおそれがあるためシャッタを開けないでください。	
ラベルを貼りつける場合にはその専用のエリアにお貼りください。「一瞬へこんでいます。」また、別のラベルをはくときには重ねてはらず、元のラベルをはがして下さい。	

## ■データ書き込みを禁止する

通常、FDDに装着されているフロッピーディスクはデータの書き込みも、読み出しも出来るようになっています。もし、そのフロッピーディスクのデータを上書きあるいは消去したくないならば、そのフロッピーディスクを、書き込み禁止にすることができます。（ライトプロテクトする）

それを行うにはフロッピーディスクの裏側を上にします。（フロッピーディスクの中心に金属の円盤が見える方が裏側です。）一方の角に下図のようなプラスチックの移動させることの出るノッチがあります。



書き込み禁止ノッチが「上側」になっているとき（上図の左がわの状態）は、フロッピーディスクをフォーマットしたり、書き込んだり、その上のファイルを消去することができます。

書き込み禁止ノッチが「下側」になっている（四角い穴が開いている状態）と、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、どんなデータも追加することは、ふたたび書き込み禁止ノッチを上側にもどさない限りできません。

## ■フロッピーディスクのFDDへの出し入れ

フロッピーディスクを装着する場合は、ラベル面を上側にし、シャッタのある方をさきFDDの中に挿入します。フロッピーディスクを正しく装着できた場合は、FDDイジェクトボタンが飛び出します。フロッピーディスクを取り出すときにはFDDイジェクトボタンをおして、フロッピーディスクを取り出します。



### ■ 3 モード FDD の使用方法

J2DX2/50Ci と J2DX4/100Ci は Microsoft の MS-DOS の Version 6.2/V の 3 モード対応 コーティリティ (1024FD) をサポートしております。

汎用的な DOS/V 機にて使用可能なフォーマット 720KB と 1.44MB に加えて 1.2MB フォーマットの フロッピーディスクの読み書きを可能にします。

J2DX2/50Ci と J2DX4/100Ci を 3 モード対応にするには 2 通りの方法があります。

#### 1 CONFIG.SYS に組み込む方法

CONFIG.SYS に下の 1 行を追加します。

```
DEVICE=C:\MSDOS\1024FD.EXE
```

#### 2 MS-DOS プロンプト上にて組み込む方法

DOS プロンプト状態にて下記のコマンドを入力します。

```
1024FD<Enter>
```

#### 注意

1024FD コーティリティは 1.2MB のフォーマットディスクの  
リード/ライトのみをサポートするもので、フロッピーディスクの  
フォーマットは行えません。又、フロッピーディスクからの起動も行え  
ません。

#### 注意

1024FD が組み込まれている状態の時 Windows の DOS プ  
ロンプトモードにて COPY コマンドを使用する場合には、ペリファイ  
アオプション /V は使用しないでください。Windows が異常動作  
して、FDD データが破壊されたり、実行中のアプリケーションが強制  
終了される可能性があります。

## チャプタ 3 キーボード

ソーテック **WinBook** とコミュニケーションするためにこのキーボードは大切な役割をはたします。

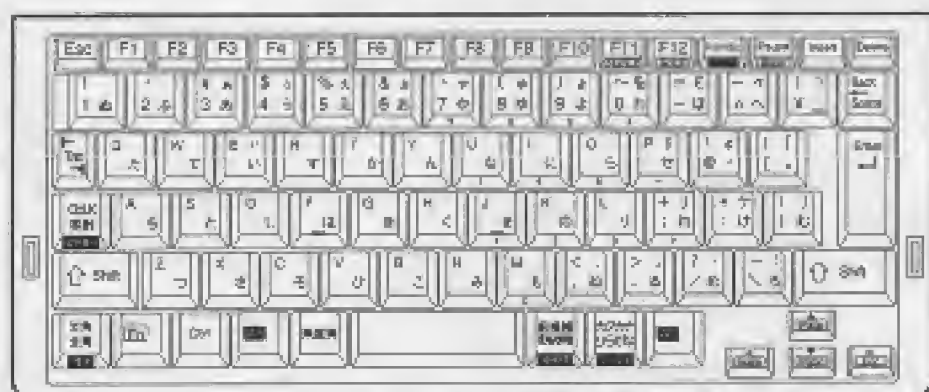
このキーボードは拡張日本語キーボード（106キー）と互換性を持っています。このチャプタではこのキーボードを使いこなすための方法を説明します。

### このチャプタでは

- キーボードの各部
- キーボードを使う
- エンベデッドキーを使う
- システムファンクションキー（システムの機能活用のための特別キー組み合わせ）
- 日本語入力

## キーボードの各部

以下の図はソーテック WinBook コンピュータのキーボードをあらわしています。



おおよそ、以下の各部分がそれぞれ説明のように機能します。

### ■ファンクションキー (F1 . . . F12)

各プログラムにより、これらのキーはファイルをセーブ、ロードしたり、オンラインヘルプを画面に表示させたり、プログラムを終了させたりするためのキーとして定義されます。DOSにおけるこれらのキーの機能は（その時にプログラムを動作させていない状態で、）MS-DOSのマニュアルに説明されています。

### ■文字入力キー

これらはまた、英数字またはカナ数字キー（アルファニューメリックキー）ともよばれます。これらのキーは、このチャプタで説明する使い方をのぞき、ちょうどタイプライクと同じ使い方をします。

### ■カーサキー

カーサはタイプする文字が次に表示される場所を示す、画面上の小さなシンボルです。DOSとDOSのアプリケーションにおいてはそれは通常点線する下線（アンダーライン）です。Windows, またそのアプリケーションにおいてはそれは一般的に“カーソル”と呼ばれ、それはたての線として表示されます。アプリケーションプログラムはカーサキー（またはマウス）を使用してファイルの中身を画面に表示し、処理を行いたい場所を指定するのに使用されます。



## ■その他のキー

幾つかのその他の機能キーが存在し、このチャプタの中で説明されています。

このチャプタのおわりにシステムの機能について説明を行っています。このセクションではマイクロプロセッサのスピードの変更や、システムコンフィグレーションを呼び出す、その他についてのキー組み合わせ（キーコンビネーション）を一覧にしています。

## キーボードを使う

多くのキーのその機能は今使用している、アプリケーションプログラムによって変わってきます。このセクションではほとんどのMS-DOSコマンドで共通であり、また一般的なアプリケーションプログラムでも通用する使い方を解説しています。このキーボードはDOS/V上でのキー操作に対応しています。

日本語入力に関する詳しい内容は「日本語入力」の項目をお読みください。

### ■編集する

編集に使用するキー群は一般的なワープロ、タイプライタでの使い方と共通です。

#### 文字入力キー群

文字と数字をタイプするのにこれらのタイプライタキーを使用します。しかしながら、文字“1”と数字“1”は混同しないように注意してください。また文字“0”と数字“0”も同様に混同しないように注意してください。コンピュータはこれらの文字と数字は“違うもの”として区別します。間違えて入力するとコンピュータの処理結果として期待とらかったものになります。



＜スペースバー＞キーを押すことにより、現在のカーサのある場所にスペースを挿入し、カーサを1スペース分右に移動します。



通常は＜Tab＞（タブ）キーを押すことにより、カーサを次のTabストップまで移動させます。一部のプログラムでは、Tabキーを押すことにより、画面上の次の項目に移動するように、使われることもあります。＜Shift＞（シフト）＋＜Tab＞によってカーサを一つまえのTabストップに移動させることもできる場合があります。



この＜Enter＞（エンター）キーを押すことによる動作は各アプリケーションにより異なります。いくつかの場合ではこのキーはちょうどタイプライタのキャリッジリターンと同じ動作をします。つまり、カーサは一行下にきがり、画面の一番左に移動します。その他のケー

スでは、<Enter>はコンピュータで動作しているプログラムの動作を決定させるように使われます。例えばEnterにより、新しい画面を表示させたり、書類をプリンタに出力したり、などです。



ほとんどのプログラムで、Backspace（バックスペース）キーはカーサを1スペース分左にうごかし、その場所にあった文字を消します。



<Del>（デリート）キーはふつうはカーサのあるところの文字を消去または右側の文字を消去し、右側の残りの文字列を左に移動させます。



使っているアプリケーションプログラムがカーサ移動機能を持っている場合、ノートブックWinBookのキーボードはカーサを動かすためになるつの方法を提供しています。

- 右下にある、4つのカーサ移動キーを使う。
- <Fn>+<PgUp>、<PgDn>、<Home>、<End>にて移動する。  
(多くのアプリケーションプログラムはまたカーサを移動させるためにマウスまたはマイクログラックボールを使うこともできるようになっています。)

各キーはそのキーに印刷されている矢印の方向に画面上のカーサを移動させるのに使います。ほとんどのアプリケーションにおいてこれらのキーを用いてカーサを移動させても画面の内容は変化しません。

また<Fn>+カーサキーにて画面のページ切り替えのキーの機能として使用することができます。それぞれのキーの前面に四角で囲んであるように機能します。

## ■シフトキーなど



これらのキーはその他のキーと組み合わせて使われます。ほとんどのアプリケーションではこれらのキー単体を用いても何の動作もできません。こういったキーとして<Shift>（シフ

ト)、<Ctrl>(コントロール)、<Alt>(オルタネート、オルトとも言います。I、<Fn>(エフエスキー、ファンクションキー (F1からF12)と区別するためこのように言います。)があります。使用する場合はその他のキーと共に押す様になります。たとえば<Ctrl>+<C>を入力する場合は、<Ctrl>を押しながら<C>のキーを押してやります。

ほとんどのプログラムでは、英数モードにて<Shift>はちょうどタイプライトのシフトキーと同じ使い方をします。つまり、大文字を入力したいときにはその文字のキーと共に<Shift>を押します。しかしながら、CAPSロックの状態にあるときには<Shift>と共に文字キーを押すと小文字が入力されます。また四角で囲まれたキー<Num Lock>、<Scroll Lock>、<End<、<End>、<Page Up>、<Page Down>は<Fn>と組み合わせることで機能させます。

またフルキーボード(106キー)の右コントロールキーは<Fn>+<Ctrl>にて入力できます。

## ■ トグルキーのなかま

トグルキーと呼ばれるこれらのキーはそのキーを一回押すことにより、それぞれのキーも持つ2つの状態を切り替えることができます。キーをもう一度押すことにより、また元の状態にもどります。スナークスL E Dは3つの標準トグルキーの現在の状態を表示してくれています。各L E Dが点灯しているときはその状態が有効になっていることを示します。また日本語入力特有のトグルキーについては「日本語入力」にて詳しく説明しています。



英数モードにて<Shift>Iを使用せずに大文字(A-Z)を入力したいときには<Shift>I+<Caps Lock>を押して下さい。CAPSロックがオンのときに<Shift>Iを使うと小文字が入力されます。CAPSロックはそのほかのシフト可能な文字に対しては影響を出しません。たとえば4をCAPSロックがオンの時に押すと4が入力されます。\$は入力されません。



NUMロックをオンにすることによって、エンベデッドニューメリックキーボードを使用できる状態にします。ニューメリックキーボードの使い方についてはこのチャプタの後半にある、「エンベデッドキーボードを使う」の項目をお読みください。



一部のプログラムでは、SCRLロックはカーサの制御に関する動作が変わったりします。例え



ば、はカーサを一行下に移動させるのではなく、カーサを動かさずに表示内容を1行分下に移動させるように変化します。



文字をタイプすると、通常はカーソルのある場所に文字がインサートされて、その他の文字は右に押されて移動してゆきます。いくつかのプログラムでは「タイプオーバー（上書き）」のモードを提供しています。この場合、タイプされた文字はすでにあるカーソルのある文字を書き換えていきます。このようなプログラムの場合、一般的にこの<Insert>キーを使ってタイプオーバー（上書き）モードとインサートモードを切り替えることができます。通常はこの場合、インサートモードなのかどうかそれを示すため画面に表示が変われます。

## ■ファンクションキー



ファンクションキーはキーボードの一番上の行にあります。これらのキーの機能はあなたの使用しているプログラムにより決められます。

MS-DOSでは、例えば<F3>を押すことにより最初にDOSプロンプトであなたがタイプしたコマンドをもう一度表示させることができます。<Enter>を押すことでもう一度このコマンドを実行することができます。（<Backspace>にて消すこともできます。）

## ■エスケープキー



<Esc>と印刷されているキーは「エスケープ」キーと呼ばれ、それぞれのアプリケーションプログラムによって色々な目的に使われます。いくつかのプログラムでメニューを表示しているとときにEscを押すと現在のメニューをぬけだし、一つ段階の高いメニューに移ることが出来ます。

DOSにおいてはコマンドをタイプしたあとに（<Enter>を押す前に）<Esc>を押せばバックスラッシュ（日本語モードでは#）を表示させてこのコマンドをキャンセルすることができます。ここで<Enter>を押せばDOSプロンプトにもどることができます。

## エンベデッドキーを使う



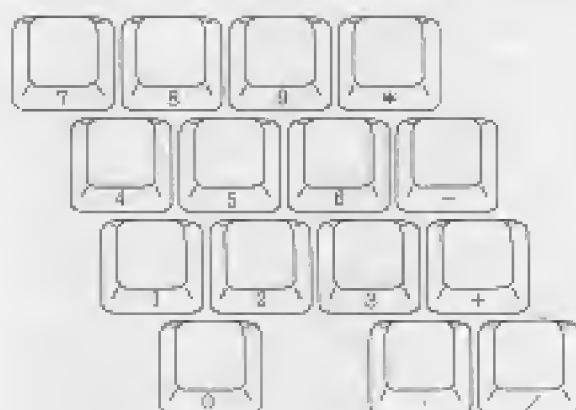
キーボードのなかで、エンベデッドキーボードの部分は2つのちがった使い方があります。

- 通常の使い方（J、Kのキーなど）
- 数値キーとして使う（0～9キー、－など）ほとんどの場合文字入力キーとしてこれを使う事になるでしょう。けれども書帳やスプレッドシートなどのなかで、たくさんの数値を入れたい場合にはNUMロックモードにしてこのエンベデッドキーを使うことができます。それではそのモードについてに説明します。

### 数値データの入力

エンベデッドキーボードを数値キーとして使用することにより、数値データの入力を簡単にすることができます。NUMロックモードにするには<Fn>+<Num>を押します。ステータスLEDのNum LockマークのLEDが点灯する（チャプタ1を参照）ことで、下図の様な

数値が入力できることを示しています。



## システムファンクションキー（システム制御キー）

ソーテック *WinBook* コンピュータのキーボードにはいくつかのコンピュータの動作を設定するための重要な機能があります。

### ■システムコンフィグレーション



<Ctrl>+<Alt>+<S>を押すことで、システムコンフィグレーションプログラムをスタートさせることができます。システムコンフィグレーションプログラムにより、システムの状態を決めるための設定を行うことができます。さらに詳しいことについてはチャプタ4の“システムコンフィグレーション”の項目をお読みください。

#### 警告

システムコンフィグレーションをスタートさせるとそのあと必ずシステムをリスタートしなければなりません。アプリケーションプログラムではデータをセーブし、プログラムを終了させてください。そうでない場合データの消失を招く場合があります。

### ■パワーマネージメント



<Fn>+<Esc>を押すことで、バッテリーの使用時間を延長させる為のススペンド・レブューム、スタンバイの機能を設定するパワーマネージメント（PM）メニューを呼び出すことができます。さらに詳しいことについてはチャプタ5の“システムコンフィグレーション”の項目をお読みください。

### ■クロックスピードの選択

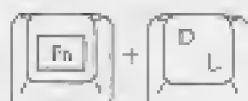


<Fn>+<T>を押すことでソーテック *WinBook* コンピュータのCPUのスピードを高い速度（FAST）から低い速度（SLOW）に切り替えることが出来ます。低い速度にすることで



よりバッテリーの消費を抑えることができます。この選択を行うたびにクロックのスピードが切り替わります。

### ■LCD画面白黒反転



＜Fn＞＋＜D＞を押すことによりLCDの白黒表示を反転させることができます。白のバックグラウンドに黒の文字の表示と黒のバックグラウンドに白の文字の表示をそれぞれ交互に切り替えます。（この機能は白黒LCDのみに有効です。カラーLCDの場合はこの機能は働きません。）

## 日本語入力

日本語MS-DOS上にて文字各種を入力する方法について説明します。

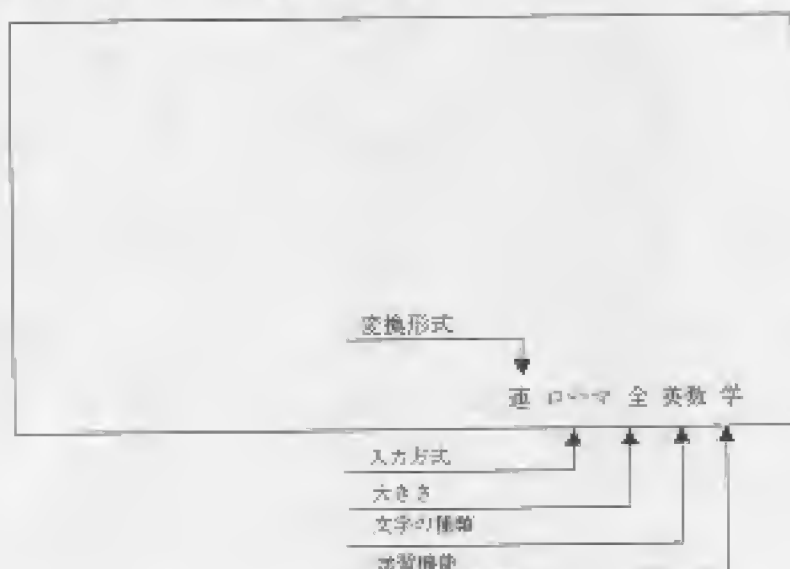
(Microsoft®MS-DOS®Version 6. 2/V)

- 文字をタイプするには
- かな入力のしかた
- ローマ字の入力のしかた
- 漢字を入力する（単漢字変換）
- コード入力モード

### ■文字をタイプするには

ここではひらがな、カタカナ、アルファベット、数字、記号等の入力方法について説明します。

画面の左下に現在の入力モードを表示しています。準備として<Alt>+<漢字>を押して日本語入力モードにしてください。解除する方法も同じです。



#### 1. 文字の種類

入力できる文字の種類は、大きく分けてかな、カナ、英数、の3種類あります。

表示	モード	切替キー（トグル）
かな	ひらがな等の入力モード	<かなかな>

カタ	カタカナ等の入力モード	<Shift>+<カタカナ>
英数	英数等の入力モード	<英数>

## 2 大きさ

入力できる文字の大きさは半角、全角の2種類あります。

表示	モード	切替キー (トグル)
半	半角入力モード	<半角/全角>
全	全角入力モード	<半角/全角>

半角文字の幅は全角文字の半分です。またひらがなと漢字には「全角」しかありません。半角モードのときでも全角にて入力されます。

## 3 かな入力方式とローマ字入力方式

入力方法は2種類あります。

表示	モード	切替キー (トグル)
R	ローマ字入力モード	<Alt>+<ローマ字>
なし	かな入力モード	<Alt>+<ローマ字>

### 補足

Windows上でのかな入力方式とローマ字入力方式の切り替えは  
<Ctrl>+<Shift>+<ひらがな>にて行います。

かな入力は入力する文字のキーをそのまま押します。たとえば「や」を入力したい場合は<や>を押します。

ローマ字入力はローマ字をタイプしながら入れます。たとえば「や」を入力するには<Y> <Alt>の順番で押します。

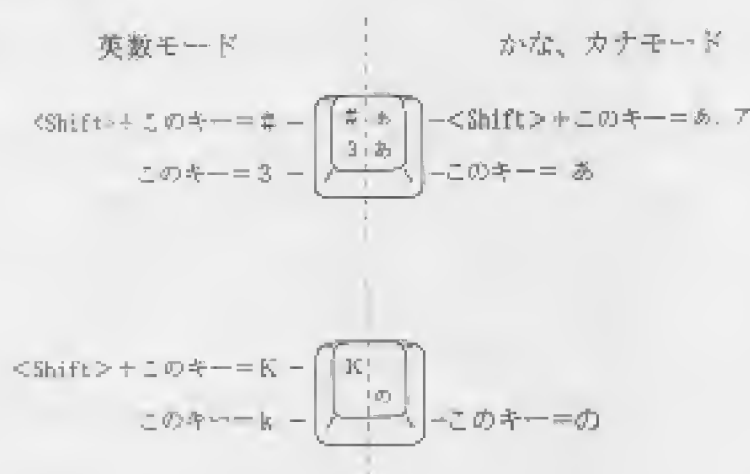
## ■かな入力のしかた

かな入力はキーに印刷されているかなを直接押すことによりかなを入力します。その基本的な方法を説明いたします。

準備として画面下のモード表示が「かな入力モード」(Rがない状態)を確認めます。ローマ字入力モードになっている場合は<Alt>+<ローマ字>にてかな入力モードにします。

基本的にキーの右側の文字はかな。カナモードのときに入力でき、左側の文字は英数モードのとき入力が可能になります。またキーの下側はそのまま、キーの上側は<Shift>+<Shift>を押しながら

ら押すと入力できます。



#### 1 ひらがな

＜ひらがな＞を押して、画面下のモード表示を「かな」にして直接そのかなキーを押し入力します。小さなひらがな（あ、い、う、え、お、つ、や、ゆ、よ、を）の場合は＜shift＞を押したままそのキーを押します。

#### 2 カタカナ

＜Shift＞＋＜カタカナ＞を押して、画面下のモード表示を「カナ」にして直接そのかなを押し入力します。小さなカタカナ（ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ、ス、セ、ソ）の場合は＜shift＞を押したままそのキーを押します。

#### 3 数字

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したい数字キーを押します。

#### 4 アルファベット小文字

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したいアルファベットキーを押します。

#### 5 アルファベット大文字（1文字）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて＜Shift＞を押しながら入力したいアルファベットキーを押します。

#### 6 アルファベット大文字（連続）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて＜Shift＞を押しながら＜英数＞を押すとロックがかかります。そして入力したいアルファベットキーを押します。

#### 7 かな記号（『、』、々、ゝ、ゞ、エ、オ、等）

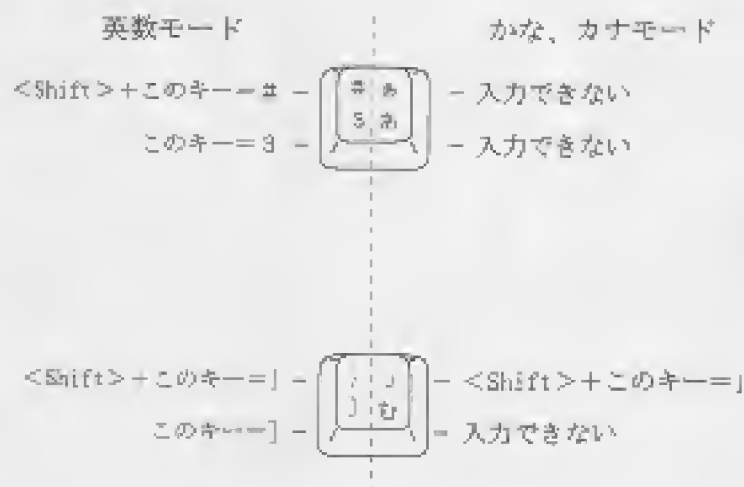
＜ひらがな＞を押して、画面下のモード表示を「かな」にします。続いて入力したいかな記号キーを押します。

## 8 英記号 [「, ④, ⑤, \$, %, ^, &amp;, \*, 等]

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したい英数記号キーを押します。

## ■ローマ字入力のしかた

準備として画面下のモード表示がローマ字入力モード（Rが表示されている）を確かめます。かな入力モードになっている場合は＜A＞＋＜ローマ字＞にてローマ字入力モードにします。



基本的にキーの左側の文字は英数モードにて有効になり右側はかな記号のみ有効になります。

## 1 ひらがな

＜ひらがな＞を押して、画面下のモード表示を「かな」にして入力したい文字のローマ字をタイプします（例：「や」なら＜Y＞＜A＞）。小さなひらがな（あ、い、う、え、お、つ、や、ゆ、る）の場合はそのローマ字の前に＜x＞をタイプします。（例：「や」なら＜X＞＜Y＞＜A＞）

## 2 カタカナ

＜カタカナ＞を押して、画面下のモード表示を「カナ」にして入力したい文字のローマ字をタイプします（例：「ヤ」なら＜Y＞＜A＞）。小さなひらがな（ア、イ、ク、エ、オ、ツ、ヤ、ユ、ヨ）の場合はそのローマ字の前に＜X＞をタイプします。（例：「ヤ」なら＜X＞＜Y＞＜A＞）

## 3 数字

「かな」、「カナ」、「英数」いずれのモードであっても入力することが可能です。

## 4 アルファベット小文字

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したいアルファベットキーを押します。

#### 5 アルファベット大文字（1文字）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて＜Shift＞を押しながら入力したいアルファベットキーを押します。

#### 6 アルファベット大文字（連続）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて＜Shift＞を押しながら＜英数＞を押すとロックがかかります。そして入力したいアルファベットキーを押します。

#### 7 かな記号（『、』、々、ゝ、ゎ、ゑ、く、等）

＜ひらがな＞を押して、画面下のモード表示を「かな」にします。続いて入力したいかな記号キーを押します。

#### 8 英記号（!、@、#、\$、%、^、&、\*、等）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したい英数記号キーを押します。

### ■漢字を入力する

Microsoft®MS-DOS®Version 6. 2/Vの添付マニュアル“日本語入力ガイドMS-IME”に入力方法が記載されていますのでご参照願います。

### ■コード入力モード

Microsoft®MS-DOS®Version 6. 2/Vの添付マニュアル“日本語入力ガイドMS-IME”に入力方法が記載されていますのでご参照願います。

## チャプタ 4 電源

ソニーテック *WinBook* コンピュータは100-240V単相の交流電源からACアダプタを使って駆動するか、または内蔵の充電式バッテリーパックにより、駆動することができます。このチャプタではACアダプタとバッテリー電源についての一部の重要な説明と消費電力の低減（パワーセーブ）の方法を含め解説しています。“はじめるまえに”にある、各注意などを御理解頂いていないようでしたら、お読みください。

### このチャプタでは

- ACアダプタを使う
- バッテリーパックを充電する
- バッテリーパックを使う
- バッテリーパワーを節約する
- バッテリーパックを交換する

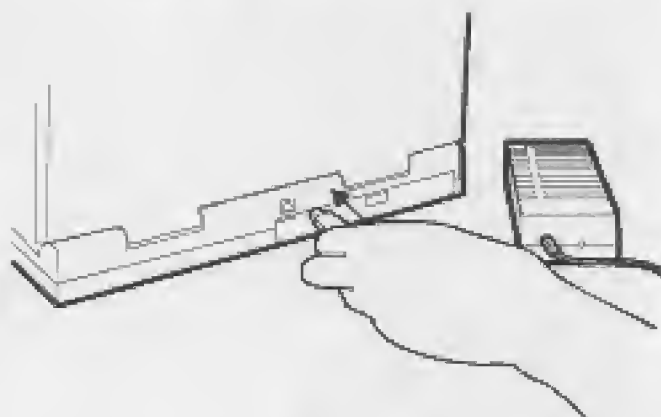
## ACアダプタの仕様

入力電圧	100-240ボルト単相 交流 (自動電圧切り替え)
入力電流	0.6-0.2アンペア
周波数	50または60ヘルツ
出力電圧	1.9ボルト
出力電流	1.3アンペア
動作温度範囲	6-35℃

## ■ACアダプタを接続する

ソーテックWinBookコンピュータに添付されたACアダプタ以外は絶対に使用しないでください。ACアダプタを使ってシステムを動作させる場合には以下のようにします。

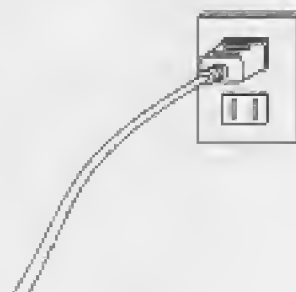
- 1) コンピュータの後ろにあるDC1.9VのコネクタにACアダプタのコードを差し込みます。



- 2) ACコードをACアダプタに接続します。



- 3) ACコードのもう一方をACコンセントに差し込みます。下図をご覧ください。

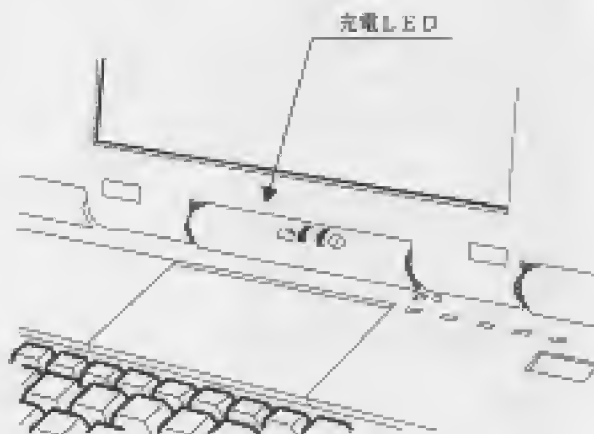


## バッテリーで動作させる

システムが出荷される時には、内蔵のバッテリーパックは充電されていません。バッテリーでシステムを動作させるときにはその前にバッテリーパックの充電を完全に行ってください。コンピュータの電源をオフの状態にし、ACアダプタを接続し、充電LEDが点灯状態になるまで、そのままにしておきます。電池を充電するにはシステムオフの状態で、約2時間かかります。（システムオンの状態では、充電はできません。）

### ■充電LED

LCD画面の下部のまんなかにある、充電LEDは現在のバッテリーパックの状態を示しています。もし完全に充電されていればLEDは点灯しています。点滅しているのはバッテリーパックは充電中であることを示しています。バッテリーパックが入っていない、またはバッテリーパックが入っていてもACアダプタが接続されていない場合は消灯しています。



LEDの点灯	状態
点滅	バッテリーパックは充電中で完全に充電はされていません。
点灯	バッテリーパックは満充電になっています。
消灯	ACアダプタが通電されていない状態です。 またはバッテリーパックが正しく装着されていないか、充電中にそれ以上充電を継続できない状態です（充電に適した温度条件を逸脱しているなど）。

### ■バッテリーパックの充電モード

ノートブック **WinBook** コンピュータではバッテリーパックはシステムがパワーオフのとき急速充電を行います。システムがパワーオンの時には充電は行われません。

## ■バッテリーの放電の状態を知る

あなたはバッテリーパックを使用しているときにそのバッテリーの残量が少なくなった場合（ローバッテリー）、以下の2つの方法でコンピュータが警告を発します。

- 電源LEDが緑からオレンジに変化する。
- 約15秒ごとに“ドップ”という音がする。

バッテリーパックの容量は残り少なくなっていることを示しています。あなたはすぐにコンピュータのデータをセーブし、ACアダプタでシステムをオフにして充電を行うか、バッテリーパックを交換してください。（このチャプタの後半のバッテリーパックの交換の項目をお読みください。）

またパワーマネージメントメニューにおいてBattery Low:の項目がSuspendに設定されている場合、システムはバッテリーの残量が大量少なくなったときに自動的にコンピュータの現在実行中のプログラムを停止し、サスペンド状態に入ります。もしBattery Low:の項目がWarning Only（警告のみ）になっている場合にはバッテリーパックの容量がなくなった時点でシステムは電源がきれてしまいます。

システムの利用を継続される場合にはACアダプタを接続し、バッテリーパックを交換してください。ACアダプタを接続、通電が確認されたのち、キーボードを押すか、電源スイッチを押してレジュームさせてください。

### 警告

ローバッテリーの状態のまま操作を継続すると、あなたが操作中のデータの消失あるいはプログラムファイルなどの損失を伴うおそれがあります。

## ■バッテリーのパワーを節約する

コンピュータの使い方により、バッテリーパックの使用時間は変化します。バッテリーパックの電力を節約するために以下にいくつかのヒントを示します。

- LCDの輝度を低くする。
- LCDの照明も含めてノートブック **WinBook** コンピュータの各構成部品を使用しないときには電源を切ってしまう、パワー制御機能を活用する。（チャプタ5に説明されています。）特にグローバルスタンバイモードでは消費電力を極めて少なくすることが可能です。
- このあと説明している、サスペンド・レジュームモードを使用する。

また以下の行為は消費電力の増大を招きます。

- ハードディスクまたはフロッピーディスクをアクセスする。
- メモリを追加する。（オプションRAMモジュール）

## ■サスペンド・レジューム機能を使う

サスペンド・レジュームモードをパワーマネージメントメニューにて選択する（チャプタ5の「システムコンフィグレーション」の項目に説明されています。）ことにより、コンピュータをオフの状態にしてもサスペンド状態に維持させることができます。大変少ない電力で、現在使用中のオペレーティングシステム、アプリケーションをそのままの状態でもメモリのなかに保持させていくことができます。コンピュータをオンにすると前にコンピュータをオフの状態にしたときの元の状態に復帰させる事ができます。

コンピュータを長い時間サスペンド状態にしておくことはおすすめできません。なぜなら少量の電力でも長時間放置しておくとバッテリーパックの電力は消費されているからです。

## ■バッテリーを交換する（バッテリーパック）

このセクションではどのようにしてソーアック **WinBook** コンピュータの底面に装着されているバッテリーパックを交換するかについて説明しています。

### 警告

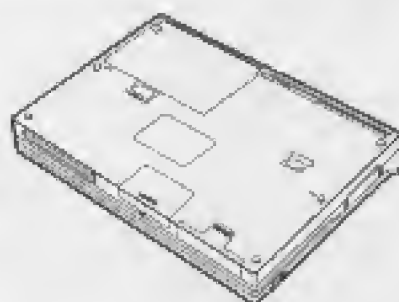
このコンピュータ専用のバッテリーパック以外の電池を使用すると、爆発、火災の起るおそれがありますので十分御注意ください。ソーアック純正のソーアック **WinBook** コンピュータ専用バッテリーパックを御使用下さい。又、バッテリーパックの分解、破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡等は絶対に行わないでください。

コンピュータが動作している状態（サスペンド中も含まれます）ではあなたはACアダプタを接続してACアダプタから電源が供給されているときのみ、バッテリーパックを交換することができます。

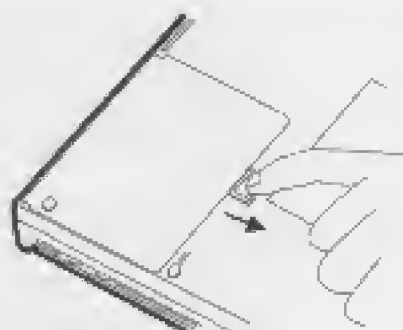
バッテリーパックを交換する前に電源LEDが黄色に点灯していることをあらかじめお確かめください。緑またはオレンジの状態ではバッテリーパックの交換はできません。もしこの様な場合はコンピュータのデータをディスクセーブするか、ACアダプタをさしこんで、アダプタからの電源供給を行ってください。

バッテリーパックの交換は以下のように行います。

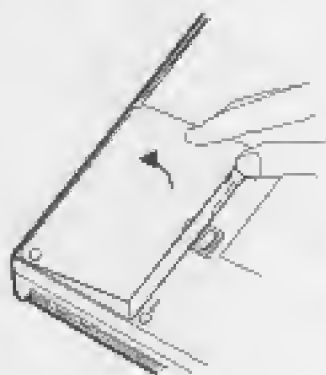
- 1) コンピュータを裏返しにします。



- 2) バッテリーパックの前にある、バッテリーパック取り出しボタンをコンピュータの前方に向かってスライドさせます。(チャプタ1の各節の説明の項目をご覧ください。)



バッテリーパックが少しだけ持ち上がりますので、そのまま唇かにバッテリーパックの前方側の縁を持ち上げて取り外します。



- 3) 交換用のバッテリーパックを装着します。バッテリーパックの端子面がコンピュータの前面に向かう方向にして、バッテリーパックの後ろ側の突起部を先に装着エリアにあわせてはめ込みます。そのあと前の部分を静かにはめていき、バッテリーパック取り出しボタンがラッチするまで静かに押し込みます。

## チャプタ 5 システムコンフィグレーション

ノートブック **WinBook** コンピュータに組み込まれている、システムコンフィグレーションプログラムはその基本的な各種機能を確認したり、設定を変更したりするために使用されます。その中にはメモリの容量、オプションを装着、CPI のスピードを変更、システムのセキュリティ、パワーマネージメントの設定変更などその他の目的にも使用されます。

### このチャプタでは

- システムコンフィグレーションプログラムをスタートさせ、使い方を説明します。

---

## システムコンフィグレーションについて

ノートブック *WinBook* コンピュータにはいくつかの重要な情報をコンピュータがオフの状態でも記憶しています。システムをスタートさせるときいつもこの情報がシステムに読み込まれます。このシステムコンフィグレーションプログラムは以下の項目を行うことができます。

- 日付と時間を変更する。
- 増設したオプションの状態を設定する。または既存のハードウェアの機能を変更する。
- パスワードを設定もしくは変更する。
- バッテリの使用時間を長くするため、パワーマネージメント (PM) 機能を使う。

また現在のシステムの設定状態を知るためにシステムコンフィグレーションプログラムを使うこともできます。システムコンフィグレーションを終了させるときには設定された内容をシステムに反映させるため、システムはかならずリブートされます。このとき以前にメモリ上に存在していた、すべてのプログラム及びデータは消失しますので御注意ください。

---

## システムコンフィグレーションをスタートさせる

システムコンフィグレーションプログラムはいつもメモリの中に常駐しています。これをスタートさせるにはDOSプロンプト（つまりアプリケーションプログラムや、Windowsの実行中ではありません。）にて<Ctrl>+<Alt>+<S>を押します。システムコンフィグレーションメニューが以下のように現われます。

このメニューは一番上の行に示されるような各サブメニューにその目的に応じて別れています。



Standard	Preferences	VGA	Memory	PowerMgmt	Defaults	Exit
SystemSoft SCL Copyright 1988-1993 SystemSoft Corp. 06/09/1993 12:00:00						
Memory			Peripherals			
Base Memory 640KB			COM Port A COM1(3F8h)			
Extended Memory 7154KB			COM Port B COM2(2F8h)			
Shadow Memory 128KB			LPT Port Address LPT1(378h)			
Reserved Memory 256KB			Video Display VGA Display			
Total Memory 8192KB			Boot Speed Fast Clock			
			Coprocessor None			
Drives						
Diskette Drive A 1.44MB						
		Type	Cyls	Heads	SPT	LZone Precomp Size
Hard Disk 1		Auto	280	10	34	0 0 162
ESC to exit - F10 to save changes						

## 注意

それぞれの機種バージョンによりハードディスクの容量が変更になる場合がございますので、上記のハードディスク容量等の表記とは異なる場合がございます。

- Standard (スタンダードサブメニュー)
- Preferences (プリファレンスサブメニュー)
- VGA (VGAサブメニュー)
- Memory (メモリサブメニュー)
- Power Management (パワーマネジメントサブメニュー)
- Defaults (デフォルトサブメニュー)
- Exit (終了)

現在の設定の状況が一覧となって画面に表示されています。それぞれのサブメニューはプルダウン式に表示されます。

これらのサブメニューは左右のカーサ移動キーにより、それぞれ選択することができます。設定したい項目のサブメニューに移動し、今度は上下のカーサ移動キーを押すことにより、それぞれのサブメニューの中の各項目を選択します。また<Enter>を押すことにより、終了サブメニューに移動することができます。J2DX2/50C1とJ2DX4/100C5はProcessorの状態はInstalledになっています。

## 1) Standard (スタンダードサブメニュー)

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行うと上下カーサ移動キーを押して希望の項目に標準カーソルを移動させて<Enter>をタイプします。

## 1) Date

カレンダーの日付を変更します。表示されているのが現在設定されている日付です。変更の必要があれば、左右カーサ移動キーを使って変更したい月、日、年のところへカーサを移動し、数字キーを使って希望する日付を入力してください。数字は月／日／年の順番に並んでいます。入力が終わったら、<Enter>を押します。変更せずに元へ戻る時には<Esc>を押します。

## 2) Time

時計の時刻を変更します。表示されているのが現在設定されている時刻です。変更の必要があれば、左右カーサ移動キーを使って変更したい時、分、秒のところへカーサを移動し、数字キーを使って希望する時刻を入力してください。数字は時／分／秒の順番に並んでいます。入力が終わったら、<Enter>を押します。変更せずに元へ戻る時には<Esc>を押します。

## 3) COM Port A

コンピュータの背面にある、シリアルポートコネクタのポート設定を行うことができます。通常はCOM1 (3F8h) に設定しておきます。使用されるアプリケーションプログラムの都合などにより、このポート設定を変更する時には上下カーサ移動キーを使用して、COM1 からCOM4 まで設定を変更することができます。なお、シリアルポートをコンピュータ上から見えない設定にするときにはDisableを選択してください。選択を完了したら、<Enter>を押してください。変更せずに元へ戻る時には<Esc>を押します。デフォルト設定ではCOM1 になります。

## 4) COM Port B

MTB (マイクロトラックボール) の使用しているシリアルポートのポート設定を行うことができます。特に必要のない限り、COM2 (2F8h) に設定しておきます。このポート設定を変更する時には上下カーサ移動キーを使用して、COM1 からCOM4 まで設定を変更することができます。なお、外部にマウスを接続する場合はMTB を動作させないようにするため、Disableを選択してください。選択を完了したら、<Enter>を押してください。変更せずに元へ戻る時には<Esc>を押します。デフォルト設定ではCOM2 になります。

COM Port A と B で同じポート設定を選択することはできません。

## 5) LPT Port Address

プリンタポートのポート設定を行うことができます。特に必要のない限り、LPT1 (378h) にしておきます。使用するプログラムの都合により、このポート設定を変更する時には上下カーサ移動キーを使用して、LPT1 からLPT3 まで設定を変更することができます。コンピュータからプリンタポートを見えないようにしたい場合はDisableを選択してください。選択を完了したら、<Enter>を押してください。変更せずに元へ戻る時には<Esc>を押します。デフォルト設定ではLPT1 になります。

## 6) Diskette Drive

フロッピーディスクドライブの設定を行います。12DX2/60C1 と12DX4/100C1 は3モード1E (44MB/1.2MB/720KB) に対応しています。この設定Diskette Drive A は目的の容量にあった設定を行います。その他の設定を行うとシステムは正しく動作することができませんので注意してください。

## 7) Hard Disk 1

ハードディスクドライブの設定を行います。ソーテック *WinBook* コンピュータではこの設定は常に **Hard Disk 1** は "Auto" にしておかなくてはなりません。その他の設定を行うとシステムは正しく動作することができませんのでご注意ください。"Auto" を選択することで *WinBook* は HDD の容量を自動的に認識しシステムを立ちあげますが HDD を交換した場合は一度システムコンフィグレーションをスタートさせ HDD の容量を完全に終了させる必要があります。デフォルト設定では "Auto" になっています。なお、特別な設定を行いたい場合は上下カーサ移動キーを使用してその設定を選択し、<Enter>を押してください。変更しない場合には <Esc> を押します。

#### 3) Video Display

システムのビデオディスプレイが何であるかを設定します。ソーテック *WinBook* コンピュータは VGA ディスプレイ装置が組み込まれていますので、この設定は常に **VGA display** にしておく必要があります。デフォルト設定で **VGA display** になります。

### 2) Preferences (プリファレンスサブメニュー)

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に反転カーソルを移動させ <Enter> をタイプします。

#### 1) Quick Boot

リセット時に行われるメモリテストを行わずにブートを行うように設定します。これにより、より早いシステムの立ち上げを行うことができます。チェックマーク "x" が **Quick Boot** の表示の左側に表示されている時にこの機能が働きます。ここでもう一度 <Enter> を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトではこの機能は禁止されています。

#### 2) NUM Lock

システムが立ち上がったときに自動的に NUM Lock をオンすることができます。これによりシステムが立ち上がった時にエンベデッドキーボードが数字キー状態になります。チェックマーク "x" が **Num Lock** の文字列の右側にあらわれている時に、この機能が働きます。ここでもう一度 <Enter> を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトではこの機能は禁止されています。

#### 3) Boot Speed

システムの立ち上がり時の CPU の速度を選択することができます。通常は "Fast Clock" つまり速い状態に設定しておきます。バッテリー使用時間を長くしたいときなど CPU の速度を遅くしたい時には "Slow Clock" を選択します。上下カーサ移動キーを押して希望の設定を選択し、<Enter>を押します。設定を行わない場合は <Esc> を押します。

#### 4) Typematic Rate

キーボードのキーを押しつづけた時のオートリピートの間隔を設定します。30文字/秒 (30 CPS) から 2文字/秒 (2 CPS) までを選択できます。おみの設定を行ってください。カーサ上下移動キーを押して選択し、<Enter>を押します。設定を行わない場合は <Esc> を押します。デフォルトでは 10 CPS (10文字/秒) の速度に設定されています。

#### 5) Typematic Delay

キーボードのキーを押してからサートリブートの始まる迄の遅延時間を設定します。250ミリ秒(250ms)から1000ミリ秒(1000ms)までを選択できます。好みの設定を行ってください。カーサ上下移動キーを押して選択し、<Enter>を押します。設定を行わない場合は<Esc>を押します。デフォルトでは500ms(0.5秒)の時間設定になっています。

#### 6) Boot Password

システムをスタートさせた時に秘密保護のためにパスワードを設定することができます。この項目で<Enter>を押すとパスワードを入力するようになっています。4文字から8文字の長さでパスワードを入力します。パスワードに有効なのは英、数字キーだけです。2回同じパスワードを入力することによりそのパスワードが受け入れられます。パスワードは何かメモするなどして、忘れないようにしてください。次回のシステムの立ち上がり時に以下の画面でシステムはパスワードの入力を要求してきます。正しいパスワードをタイプしてください。間違えた入力を行った場合は3回まで再要求を行います。3回とも間違えた場合にはシステムはリブートします。

Enter your BOOT PASSWORD \_\_\_\_\_

もし、パスワードを忘れた場合にはゾーテックテクニカルセンタまでご連絡ください。

#### 7) SCU Password

システムコンフィグレーションメニューをスタートさせる時にパスワードを設定することができます。この項目で<Enter>を押すとパスワードを入力するようになっています。4文字から8文字の長さでパスワードを押します。パスワードに有効なのは英、数字キーだけです。2回同じパスワードを入力することにより、そのパスワードが受け入れられます。パスワードは何かメモするなどして、忘れないようにしてください。次回のシステムコンフィグレーションのスタート時に以下の入力画面があらわれますのでここで正しいパスワードをタイプしてください。間違えた入力を行った場合は3回まで再要求を行います。3回とも間違えた場合にはシステムはリブートします。

Enter your SETUP PASSWORD \_\_\_\_\_

#### 8) First Boot

システムはフロッピーディスク、ハードディスクまたはICカードのいずれからもブートさせることが可能です(ただし装着メディアが正しくブート出来るように書き込まれていることが必要です)。通常はドライブAである。フロッピーディスクを読みに行き、もしメディアが装着されていなければハードディスクからブートし、ハードディスクがなければICカードからブートを行います。上下カーサ移動キーを押してどのデバイスからブートを最初に行うかを設定します。選択を決定したら、<Enter>を押します。設定を行わない時には<Esc>を押します。デフォルトはドライブAつまりフロッピーディスクから最初にブートを行うようになっています。

#### 3) VGA (VGAサブメニュー)

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に反転ツールを移動させ<Enter>をタイプします。

## 0 Display Mode

外部CRTとLCDの表示をどのように行うかを設定します。BOTHを選択するとCRT、LCD同時に表示（デュアルディスプレイ）し、LCDを選択するとLCDにのみ表示します。CRTを選択するとCRTにのみ表示します。上下カーサ移動キーを押して選択を決定したら、<Enter>を押します。設定を行わない時にはEscを押してください。デフォルトはLCDになっています。

### 2) LCD Automap Display

白黒LCDの表示（256色のグラフィックス表示）を見易くする状態を設定します。この項目で<Enter>を押し、上下カーサ移動キーでEnable（オートマップ設定オン）かDisable（オートマップ設定オフ）を選択し、<Enter>を押します。デフォルトはEnable（オートマップ設定オン）です。尚、J2DX2/50CiとJ2DX4/100Ciには表示されません。

### 3) Text Mode

テキストモードの時のLCD画面の表示のしかたを設定します。Normalに設定するとCRTで一般的に表示されるものと同じように表示されます。Reverseに設定するとCRT表示とは逆転した（白／黒逆転つまりネガティブ）表示になります。英語モードのテキスト表示の時にこの設定は有効になり、Reverseで使用するすると画面を見易くすることができます。上下カーサ移動キーを押して選択を決定したら、<Enter>を押します。設定を行わない時にはEscを押してください。デフォルトはReverse（CRTと逆転）です。なお、この設定は白黒LCDにのみ有効でカラーLCD、CRTには影響しません。尚、J2DX2/50CiとJ2DX4/100Ciには表示されません。

### 4) Graphics Mode

グラフィックスモードの時のLCD画面の表示のしかたを設定します。Normalに設定するとCRTで一般的に表示されるものと同じ様に表示されます。Reverseに設定するとCRT表示とは逆転した（白／黒逆転つまりネガティブ）表示になります。日本語MS-DOSの日本語モード、Windowsの画面はすべてグラフィックスモードを使用していますのでこの設定が影響を受けます。上下カーサ移動キーを押して選択を決定したら、<Enter>を押します。設定を行わない時にはEscを押してください。デフォルトはNormal（CRTと同じ）です。なお、この設定は白黒LCDにのみ有効でカラーLCD、CRTには影響しません。J2DX2/50CiとJ2DX4/100Ciには表示されません。

## 4 Memory （メモリアブメニュー）

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に反転カーソルを移動させてEnterをタイプします。

### 1) Shadow System BIOS

システムBIOSROMの内容をRAMにコピーして実行する状態をShadow（シャドウ）といい、システムの性能をより速くすることができます。チェックマーク“\*”がShadow System BIOSの表示の左側に表示されている時にこの機能が働きます。ここでもう一度Enterを押せばこの機能を解除することができます。デフォルトでこの機能は生かされています。

### 2) Shadow Video BIOS

ビデオBIOS ROMの内容をRAMにコピーして実行する状態をShadow (シャドウ) といいます。システムの処理スピードをより速くすることができます。チェックマーク"✓"がShadow Video BIOSの表示の左側に表示されている時にこの機能が働きます。ここでもう一度<Enter>を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトでこの機能は生かされています。

### 3) Cache Enable

CPU内部のキャッシュメモリの動作を行うかどうかを設定します。特に必要の無い限りこれはCache Enableの状態で使用してください。キャッシュを禁止するとシステムの処理スピードは遅くなります。デフォルトでキャッシュ機能は生かされています。

## 5 Power Management (パワーマネジメントサブメニュー)

この項目を選択して<Enter>を押すか、上下カーサ移動キーを押すとパワーマネジメントメニュー (PMメニュー) をスタートさせることができます。詳しい内容はこの先の"パワーマネジメントメニューをスタートさせる"の項目をお読みください。PMメニューを終了させるとここに戻ってきます。

## 6 Defaults (デフォルトサブメニュー)

この項目を選択して<Enter>を押すか、上下カーサ移動キーを押すとシステムコンフィグレーションのデフォルト値を設定することができます。各設定項目の内容は以下のとおりです。

Standard	デフォルト設定値	説明
Date	No effect	デフォルトはありません。
Time	No effect	デフォルトはありません。
COM PORT A	COM1 (3F8h)	シリアルポートはCOM1設定
COM PORT B	COM2 (3F8h)	MTBはCOM2設定
LPT Port Address	LPT1 (378h)	プリンタポートはLPT1設定
Diskette Drive	1.44MB	FDDは1.44MB
Hard Disk 1	Auto	自動設定
Video Display	VGA Display	VGAディスプレイ設定

Preference	デフォルト設定値	説明
Quick Boot	Not Quick Boot	メモリテストを実行します。
Num Lock	Not Num Lock	NUMロック オフ
Boot Speed	High	速いスピード
Typematic Rate	10 CPS	10文字/秒
Typematic Delay	500ms	0.5秒
Boot Password	Disabled	なし
SCSI Password	Disabled	なし
First Boot	Drive A	フロッピーから最初にブート

VGA	デフォルト設定値	説明
Display Mode	LCD	LCDにのみ表示
LCD Automap Display	Enabled	自黒LCDの階調を自動調整
Text Mode	Reverse	CRTで逆転 (未実)
Graphics Mode	Normal	CRTと同じ

Memory	デフォルト設定値	説明
Shadow System BIOS	Enable	シャドウシステムBIOSオン
Shadow Video BIOS	Enable	シャドウビデオBIOSオン
Cache Enable	Enable	CPUキャッシュオン

## 7 Exit (終了)

この項目を選択して上下カーソル移動キーを押すか、<Enter>を押すと終了サブメニューが表示されます。設定内容を変更していなければ以下のような表示になり、<Esc>を押せばシステムコンフィグレーションメニューを終了します。その他のキーを押せば設定の変更を継続することができます。

```

                ESC to exit now

        Any other key to continue
  
```

もし設定を変更している場合は以下のような表示になります。設定内容をリチウム電池でバックアップされたメモリに記憶させて終了させるためには<Enter>を押します。システムをメモリに書き込んでからシステムコンフィグレーションメニューを終了させます。設定を変更しないで終了する場合は<Esc>を押してください。変更を継続する場合には何かその他のキーを押してください。

```

        Do you wish to save your changes?

        ESC to exit - ENTER to save and exit

        Any other key to continue
  
```

なお、その他のサブメニューを選択中に<Esc>を押すことで終了サブメニューに移動することが出来ます。また<F10>を押すことでメモリに設定内容を記憶させることができます。

## パワーマネジメントメニューをスタートさせる

パワーマネジメントメニュープログラムはいつもメモリの中に常駐しています。これをスタートさせるには **Fon + Esc** を押します。パワーマネジメントメニュー (PMメニュー) が以下のように現われます。

このメニューは一番上の行に示されるような各サブメニューにその目的に応じて別れています。

Controls	System	Device	Defaults	Exit
SystemSoft MAXIMIZER(tm) for 486/486286 Version Copyright 1990-1993 SystemSoft Corp. All Rights Reserved.				
<b>Controls</b> Power Saving: Always Power Switch: Suspend/Resume Battery Low: Warn Only Modem Ring Resume: Disable Alarm Resume: Disable Cover Switch: Suspend		<b>System Options</b> Cpu Idle: Disable Global Standby: Disable Auto Suspend: Disable Video Monitoring: Disable		
<b>Devices</b> Video: Always On HardDisk: Always On				
ESC to exit - F10 to save changes				

- **Controls** (コントロールサブメニュー)
- **System** (システムサブメニュー)
- **Device** (デバイスサブメニュー)
- **Defaults** (デフォルトサブメニュー)

現在の設定の状況が一覧となって画面に表示されています。それぞれのサブメニューはプルダウン式に表示されます。

これらのサブメニューは左右のカーサ移動キーにより、それぞれ選択することができます。設定したい項目のサブメニューに移動し、今度は上下のカーサ移動キーを押すことによって、それぞれのサブメニューの中の各項目を選択します。この時 **Esc** を押すと終了のサブメニューに移ることができます。

### 1 Controls (コントロールサブメニュー)

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に縦型カーソルを移動させ、**Enter** を押します。

#### 1) Power Savings (パワーセーブ)



システムのパワーセーブ機能をどのような時に有効にするかを設定します。Alwaysを設定すると、バッテリパック・ACアダプタどちらの電源を使用していてもパワーセーブ機能はいつも有効になります。Batteryを設定するとバッテリパックを使用しているときのみ、パワーセーブ機能が有効になります。Disableを設定すると、パワーセーブ機能は無効になります。上下カーサ移動キーを押して項目を指定したのち、<Enter>を押します。設定を行わない時には<Esc>を押します。デフォルト設定はAlwaysです。

## 2) Power Switch (電源スイッチ)

電源スイッチの機能を切り替えます。電源スイッチを押すことによりシステムをパワーオン・オフさせるか、サスペンド・レジュームさせるかを選択します。On/Offを選択すると電源スイッチはオン・オフ機能になります。Suspend/Resumeを選択すると電源スイッチはサスペンド・レジューム機能になります。上下カーサ移動キーを押して項目を選択した後、<Enter>を押します。設定を行わない時には<Esc>を押します。デフォルト設定はSuspend/Resume (サスペンド・レジューム) です。

## 3) Battery Low (バッテリー容量低下)

バッテリー容量が少なくなった時にシステムをどのように動作させるかを選択します。システムは電池容量が少なくなったとき自動的に電源LEDの色を緑からオレンジに亮化させ、また消費電力を節約するため、CPUの動作速度を低下させます。このとき、スピーカからは16秒毎にピップ音が発生します。Warn Onlyを選択すると、システムは動作出来る限界点にてサスペンドします。Suspendを選択すると、ある程度余裕を持ってサスペンドに入ります。チェックマーク「✓」がBattery Lowの表示の左側に表示されている時はSuspend (サスペンド) になり、チェックマーク「✓」が無い場合はWarn Only (警告のみ) となります。ここでもう一度<Enter>を押せばこの機能を切り替えることができます。デフォルトではWarn Only (警告のみ) となっています。なおメニュー画面のControlsと表示された項目のBattery Lowの項目でもその設定を確認することができます。

### 警告

ローバッテリー状態でサスペンドに入ったときはそのままの状態からレジュームさせないでください。システムにはレジュームさせるだけの容量は残っていません。必ずACアダプタを装着してから、レジュームさせてください。

## 4) Modem Ring Resume (モデム電話呼び出しによるレジューム)

ICカードスロットに装着されたモデムカードを使用したときに選択出来るオプションです。チェックマーク「✓」がModem Ring Resume表示の左側にあらわれている時はこの機能が生かされています。ここで<Enter>を押せば機能の選択が可能です。モデムを使用し、外部から電話呼び出し(Ring)があったときに自動的にレジュームさせることができます。デフォルトではこの機能は禁止されています。

## 5) Alarm Resume (時刻設定によるレジューム)

あらかじめ設定した時刻にシステムをレジュームさせることが可能です。この機能を設定するにはアラーム時刻の設定が必要です。この項目にて<Enter>を押すと以下のような表示が出てきてアラームレジュームを行うかを開いてきます。設定を行うなら上下カーサ移動キーを押して表示がEnable (動作許可) にして、<Enter>を押します。逆にアラームレジュームを禁止したいならここで表示がDisable (禁止) となるようにして、<Enter>を押します。設定がEnableになっているとチェックマーク「✓」がAlarm Resume表示の左側にあらわれます。デフォルトでこの機能は禁止されています。

Use ARROWS to Enable/Disable Alarm

Enable

このあと以下のようなアラーム時刻設定を行うための表示がでますので希望の時刻に設定を変更します。時間・分のカーソルの位置を変更するには左右カーサ移動キーを、それぞれの値を変更するには上下カーサ移動キーを使用してください。変更が終わったら<Enter>を押してください。変更しない場合には<Esc>を押してください。

Use ARROWS to set the Alarm time

04:50

#### 6) Cover Switch (LCD装置を開じた時の設定)

LCDを開じた時のコンピュータの動作を選択することが出来ます。LCDを開じたら自動的にサスペンド状態になる設定と、LCDを開いてもコンピュータはそのまま動作を続ける設定です。通常はサスペンド設定で御使用ください。動作をストップする様に設定することでLCDを開じて、外部キーボード、外部CR等を接続してWinBookをデスクトップコンピュータの様に使うことが出来るようになります。この項目で<Enter>を押すとSuspendまたはLCD On/OFFの選択を上下カーサ移動キーで行うことができます。デフォルトはSuspendです。

##### 注意

LCDを閉じた状態で使用される時は内部の熱がこもらないように風通りの良いところにおいて御使用ください。内部温度が上昇しすぎた場合には過熱保護装置が機能し、システムの動作スピードが遅くなる場合があります。このような時にはシステムをオフして温度が低下するまで御使用にならないでください。

##### 注意

LCDを開じたまま御使用になった後、温度が下がらないうちにLCD装置を開けて使用された場合、LCD上に表示のメラが現れる場合がありますがこれは故障ではありません。しばらくたてばこのメラは無くなります。

#### 7) High Speed Com Port

シリアルポートにて9600BPS以上の高速なモデム等をお使いになる場合又は9600BPS以上の高速なFAX/MODEM ICカードをお使いになる場合はこの項目で<Enter>を押し設定を変更してください。チェックマーク" / " がHigh Speed Com Portの表示の左側にあらわれた場合は9600BPS以上の高速転送が可能です。チェックマークが無い場合は9600BPS以上の高速シリアル転送中においてデータが正しく転送出来ない場合があります。デフォルトでは消費電力削減の為チェックマークなしにしています。

#### 8) Beeper On/Off (スピーカのオン・オフ)

スピーカから出る音を禁止します。この項目で<Enter>を押すと設定の変更を行うことができます。チェックマーク「」がBeep On/Offの表示の左側にあらわれたときはスピーカから音が出る状態（オン）になります。デフォルトでスピーカの音はオンになっています。

## 2) System (システムサブメニュー)

### 1) CPU Idle (CPUのアイドル設定)

システムが一定時間稼働していないと判断した場合に自動的にCPUのクロックスピードを遅くするための機能です。この稼働していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で<Enter>を押すと4秒から16秒までの選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはDisableを選択してください。希望の時間設定の位置で<Enter>を押すと設定されます。設定を行わない時にはEscを押してください。デフォルトはDisable（禁止）です。

アイドル状態（クロックの下がった状態）でキーボードを押すなどアクションを起こすとCPUのスピードは自動的にもとの速度に復帰します。

#### 注意

メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合に、この設定を行うと稼働状態の検出が正しくできないことがあり、CPUのスピードが落ちてしまいます。このような時にはCPU Idle設定はDisableにしてご使用ください。

### 2) Global Standby (グローバルスタンバイ)

システムが一定時間稼働していないと判断した場合に自動的にシステムの各製品の電源を落としてしまうための機能です。このときシステムは動作を停止し、表示（LCDとCRT）はしなくなります。

この稼働していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で<Enter>を押すと1分から16分の間での選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはDisableを選択してください。希望の時間設定の位置で<Enter>を押すと設定されます。設定を行わない時にはEscを押してください。デフォルトはDisableです。

グローバルスタンバイ状態でキーボードを押すなどアクションを起こすとシステムはグローバルスタンバイに入る以前の状態に復帰します。

#### 注意

メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合に、この設定を行うと稼働状態の検出が正しくできないことがあり、グローバルスタンバイになってしまいます。このような時にはGlobal Standby設定はDisableにしてご使用ください。

### 3) Auto Suspend (オートサスペンド)

システムが一定時間稼働していないと判断した場合に自動的にシステムをサスペンドさせるための機能です。このときシステムの動作は停止し、表示も消えます。前回のグローバルスタンバイより更に消費電流は少なくなります。

この稼働していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で<Enter>を押すと1分から6分の間での選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。こ

の機能を使用しないときにはDisableを選択してください。希望の時間設定の位置で<Enter>を押すと設定されます。設定を行わない時には<Esc>を押してください。デフォルトはDisableです。

サスペンド状態からの復帰（レジューム）はキーボードのキースイッチを押すか、電源スイッチを押すかにより行うことができます（アラームレジューム、モデム電話呼び出しレジュームも設定により可能です）。レジューム動作には数秒を必要とします。

#### 注意

メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合に、この設定を行うと稼働状態の検出が正しくできないことがあり、サスペンド状態になってしまうことがあります。このような時にはAuto Suspend設定はDisableにしてご使用ください。

### 4) Video Monitoring (ビデオモニタリング)

上記3種類のパワーセーブ機能を使用しているときにアプリケーションプログラムによってはこの機能を設定したほうがより効果的にパワーセーブ出来る場合があります。この項目で<Enter>を押し、チェックマーク"✓"がVideo Monitoring表示の左側にあらわれるとこの機能が有効化されています。デフォルトでこの機能は禁止されています。

### 3 Device (デバイスサブメニュー)

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目にカーソルを移動させ、<Enter>を押します。

#### 1) Video (ビデオ部)

一定時間キーボードからの入力をしていないと判断した場合に自動的にLCD・CRT表示回路の電源をオフにする機能です。このときシステムの表示は消えますが、動作は継続しています。この項目で<Enter>を押すと1分から16分までの時間選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはAlways Onを選択します。<Enter>を押すと設定されます。デフォルトでAlways Onになっています。

#### 2) Hard disk (ハードディスク部)

一定時間キーボードからの入力がないか、ハードディスクの使用がなかったと判断した場合に自動的にHDDの電源をオフにする機能です。このときHDDの電源はオフになりますが他のシステムの動作は継続しています。この項目で<Enter>を押すと1分から16分までの時間選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しない時にはAlways Onを選択します。<Enter>を押すと設定されます。デフォルトでAlways Onになっています。

### 5 Default (デフォルトサブメニュー)

この項目を選択して<Enter>を押すか、上下カーサ移動キーを押すとパワーマネージメントメニューのデフォルト値を設定することができます。各設定項目の内容は以下のとおりです。

Controls	デフォルト設定値	説明
Power Savings	Always	常時パワーセーブを行う
Power Switch	Suspend + Resume	サスペンド・レジュームを行う
Battery Low	Warn Only	バッテリー残量警告のみ
Modem Ring Resume	Disabled	モデム呼び出しによるレジューム禁止

Alarm Resume	Disabled	時刻設定レジューム禁止
Cover Switch	Suspend - Resume	サスペンド・レジュームを行う
Beep: On/Off	On	スピーカ出力オン

System	デフォルト設定値	説明
CPU Idle	Disabled	CPUのスタンバイ機能禁止
Global Standby	Disabled	システム全体のスタンバイ機能禁止
Auto Suspend	Disabled	自動サスペンド禁止
Video Monitoring	Disabled	ビデオメモリアクセス監視機能禁止

Device	デフォルト設定値	説明
Videa	Always On	ビデオ回路のパワーセーブ無し
Hard Disk	Always On	ハードディスクのパワーセーブ無し

#### 5 Exit (終了サブメニュー)

この項目を選択して上下カーソル移動キーを押すか、<Enter>を押すと終了サブメニューが表示されます。設定内容を変更していなければ以下のような表示になり、<Esc>を押せばパワーマネジメントメニューを終了します。その他のキーを押せば設定の変更を継続することができます。

```

      ESC to exit now
      Any other key to continue
  
```

もし設定を変更している場合は以下のような表示になります。設定内容をリチウム電池でバックアップされたメモリに記憶させて終了させるためには<Enter>を押します。システムをメモリに書き込んでからパワーマネジメントメニューを終了させます。設定を変更しないで終了する場合は<Esc>を押してください。変更を継続する場合には何かその他のキーを押してください。パワーマネジメントメニューを抜け出すと呼び出す前の状態に戻ります。

```

      Do you wish to save your changes?
      ESC to exit - ENTER to save and exit
      Any other key to continue
  
```

なお、その他のサブメニューを選択中に<Esc>を押すことで終了サブメニューに移転することができます。またF10キーを押すことでメモリに設定内容を記憶させることができます。

## チャプタ 6 オプションデバイスを装着する

以下の各オプションデバイスがノートブック *WinBook* コンピュータに使用することができます。

- 拡張RAMモジュール
- 外部キーボード・P.S./マウス
- 外部CRTモニタ
- PCMCIAカード

### このチャプタでは

上記のオプションデバイスの装着方法について説明しています。

## 拡張RAMモジュール

ソーテックWinBookコンピュータは4MBのシステムメモリがコンピュータのマザーボード上に装着され、その上4MB拡張RAMモジュールが標準搭載され合計8MBのメモリにて出荷されています。この他に4MBのRAMカードを1枚または、16MB RAMカードを標準搭載されている4MB RAMカードの横りに1枚装着でき、最大20MBのメモリを得ることができます。

### ■拡張RAMモジュールを装着する

#### 警告

RAMモジュールを装着する前に必ずコンピュータをオフにしてください。またサスペンドレジューム設定になってはいけません。PMメニューにて電源スイッチの機能をオン・オフに設定し、システムの電源をオフにしてください。

#### 警告

RAMモジュールは5Vタイプと3.3Vタイプがあります。「2DX2/50C1」と「2DX4/100C1」は3.3Vタイプを使用してください。誤ってタイプを間違えた場合は、動作を保証できません。

拡張RAMモジュールを装着するには

- 1) 拡張RAMエリアのふたを開けます。
- 2) モジュールを注意深く一枚ずつ装着します。

標準では4MBのシステムメモリ上に4MB拡張RAMモジュールが1枚装着され、合計8MBメモリにて出荷されています。

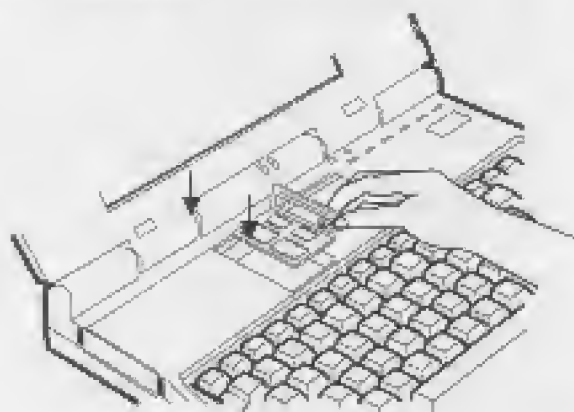
4MB拡張RAMモジュールを追加する場合は、その上にもう一枚追加して合計12MBまで増設できます。

16MB拡張RAMモジュールを追加する場合は、すでに装着済みの4MB拡張RAMモジュール1枚と交換して最大20MBまで増設できます。

#### 警告

16MB拡張RAMモジュールを増設する場合は必ず4MB拡張RAMモジュールを取り外してください。もし、そのまま4MB拡張RAMモジュールの上に16MB拡張RAMモジュールを重ねて装着した場合は、動作しなくなり、故障の原因になります。

- 3) 拡張RAMエリアのふたを閉めます。



拡張RAMモジュールの装着を行ったあと最初のパワーオンを行ったときにはシステムの以前に記憶していたRAMの容量と現在の容量が一致しないため、画面にエラーメッセージが表示されます。このとき、<Ctrl>+<Alt>+<S>を押してシステムコンフィグレーションプログラムを呼び出してください。システムは自動的に現在のRAM容量を読み込み、設定を行いますので、ここで<F10>を押してその新しいRAM容量設定を記憶させます。詳しい内容はチャプタ6の説明をお読みください。



## 外部キーボード

ソートブック **WinBook** コンピュータは外部キーボード用のコネクタを装備しています。PS/2 用のキーボード装置を接続して使用することができます。外部キーボードを接続していても内部キーボードは同時に使用することができます。

### ■外部キーボードを接続する

#### 警告

この先に進む前にコンピュータをサスペンド・レジュームから解除し、電源を切ってください。

コンピュータの背面の右側にある、外部キーボードコネクタに外部キーボードのケーブルを差し込みます。

コンピュータの電源をオンにしたときに外部キーボードは自動的にコンピュータに認識されます。

この外部キーボードコネクタに別売りのキーボード・マウス接続アダプタを接続すると、PS/2 マウスと PS/2 外部キーボードを同時に接続することが出来るようになります。

#### 注意

このコネクタに PS/2 マウスは直接接続できません。  
<Fn> による F/M メニューの呼び出し、クロック速度の切り替え、表示の回転などの機能は外部キーボードからは使用できません。

#### 注意

外部キーボードを使用せず PS/2 マウスのみを使用したい場合でも必ずキーボード・マウス接続アダプタが必要になります。  
尚、日本 I BM 社製のキーボード・マウス接続アダプタをお使いになる場合には、キーボードとマウスの表示が逆になるため、キーボードの表示側にはマウスをマウスの表示側にはキーボードを接続してください。  
(内部仕様が違うため)

## 外部CRTモニタ

ソーテック **WinBook** コンピュータのLCD画面表示だけでなく、あなたは外部VGAまたはマルチ周波数対応のCRTを接続することにより、CRTにおいても表示を行うことができます。

ソーテック **WinBook** コンピュータに接続、表示出来るCRTはVGA対応のCRTおよび、VGA対応のマルチ周波数CRTです。 CRTのタイプによりWindowsで表示可能なドット数が変化します。 さらに詳しい内容についてはAPPENDIX Bのユーティリティの項目をお読みください。

### ■CRTモニタを接続する

#### 警告

この先に進む前にコンピュータをサスペンド・レジェームから解除し、電源を切ってください。

外部CRTモニタを接続するときは外部CRTモニタのケーブルをコンピュータ背面にある、外部CRTコネクタに接続してください。

システムのシステムコンフィグレーションメニューのなかのVGAのLCD/CRT設定がCRTになっているか、BOTHになっている場合はコンピュータの電源を入れることにより、自動的にCRTに表示を行います。LCD設定になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューにてLCD又はBOTHの設定にしてください。詳しい設定の方法はチャプタをお読みください。またWindows上、MSDOSプロンプト上で一時的にLCD/CRTの表示を切り替えるためのユーティリティが用意されています。詳しくはAPPENDIX Bのユーティリティの項目をお読みください。

## ICカード (PCMCIAカード)

### ■PCMCIAについて

PCMCIAは携帯用パソコンなどに装着して利用するICカードを各機器で共通に使用出来る様に定められたICカードの規格です。この規格に準拠したメモリ、ハードディスク、モデム、LANカードなど多くのカードが今後販売される予定になっています。PCMCIAカードにはいくつかの厚みに応じて種類がわかれています。

ソーテックWinBookコンピュータにはPCMCIAタイプ1またはタイプ2を2枚まで装着できます。厚い、タイプ3のカードの場合は下側のスロットに一枚だけ装着できます。

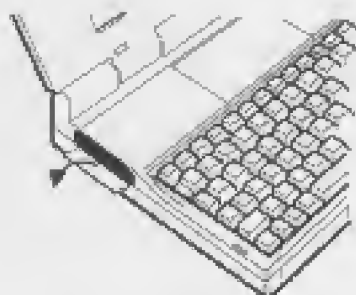
ソーテックWinBookコンピュータにはPCMCIAカードを装着して、使用するためのコントローラ回路と、上記のカードを装着するためのスロット装置があります。

#### 注意

異なる規格のICカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与える恐れがあります。ソーテックの推奨するPCMCIA規格のカードを必ず御使用ください。

### ■PCMCIAカードの装着

ソーテックWinBookコンピュータにはPCMCIAカードをシステムの動作中においても装着することができます。またソフトウェアドライバが自動的にそのカードを認識し、装着の直後からその目的に応じて使用することが可能です。

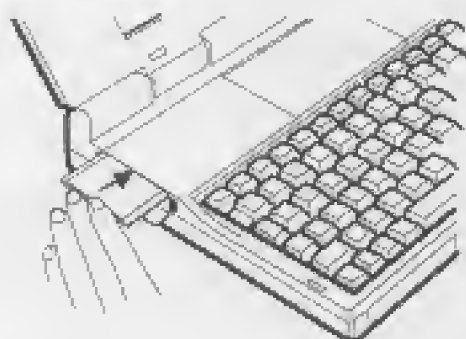


カードスロットカバーをあけます。

希望するスロットにICカードをゆっくり挿入します。上のスロットの場合左側、下のスロットの場合右側のカードイジェクトボタンが飛び出すまで奥に押し込みます。この時のICカードはイジェクトボタンと同じ程度（約1センチメートル程度）外に出ます。

## 注意

1 Cカードは完全に装着された状態でも、1センチメートル程外に飛び出しています。無理に押し込まないようにしてください。

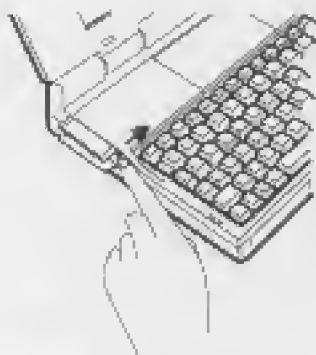


システムが動作中で、正しくカード用ドライバが組み込まれていればカードを差し込んだ時にビープ音が1回鳴りシステムがカードを認識し、動作の準備を完了したことを示します。1このビープ音はPMメニューにてH E R P E Rをオフに設定していると鳴りません。1

この後は通常通りカードを使用することができます。

## ■PCMCIAカードの取り外し

1 Cカードを取り出すときにはそれぞれの抜きたい1 Cカードの入っているスロットのイジェクトボタンを押し込みます。1 Cカードは1センチメートル程飛び出します。



1 Cカードを抜き取り、保管してください。

システムが稼働中、1 Cカードをプログラムが使用中でなければいつでも1 Cカードを抜きとることが可能です。カードを抜き取ると、システムからビープ音が2回鳴りカードがシステムから抜き取られたことを知らせます。(このビープ音はPMメニューにてH E R P E Rをオフに設定していると鳴りません。)

## ■ソフトウェアドライバインストール

PCMCIAカードを正しく御利用になるためには、正しくカードをサポートするためのプログラム群がインストールされていなくてはなりません。

PCMCIAカードソフトを簡単にインストールするためのソフトウェアが準備されています。システムに添付されているリファレンスディスクに必要なソフトウェアが用意されています。詳しい使用方法についてはAPPENDIX B ニューティリティの項目をお読みください。

### 注意

PCMCIAカードは、種類により動作しないものもあります。このため、PCMCIAカードをご購入される場合は、必ず本機へ対応しているかをご確認されることをお勧めいたします。

## チャプタ 7 故障かな？と思ったら

ソーテック WinBook コンピュータをご使用中に「故障？」と思われる症状が起きた場合、このチャプタを御確認ください。以下に 13 の症状についての原因と対策を説明しますが、もしも問題が解決できない場合はお問い合わせの販売店かソーテックテクニカルサポートセンターにご相談ください。

### このチャプタでは

- トラブルとその対策

## トラブルとその対策

### ■電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対策
ACアダプターが正しく接続されていない。	ACアダプターを正しく接続してください。
バッテリーが充電されていない。	ACアダプターを接続してバッテリーを充電してからご使用ください。
ACアダプターが故障している。	他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばACアダプターが故障している可能性が有ります。その場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
本体が故障している。以下、この項については 削除します)	お買い求めの販売店にご相談ください。

### ■画面に何も表示されない、または、見にくい

考えられる原因	対策
電源が入っていない。	前記の対策と同じ確認を行ってください。
コントラスト調整ノブの未調整。(TFTカラーモデルにはありません)	コントラストボリュームを見やすい位置に調整してください。
輝度調整ノブの未調整。	バックライトボリュームを見やすい位置に調整してください。
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度等の影響によって、表示が変わる特性があります。ムラが有るの故障ではありません。
モード設定がCRTで、CRTの電源がONされていない。	CRTのSWをONしてください。
TFTモデルJ2SX/CX1の液晶画面にドット抜けがみられる。	故障ではありません。

### ■HDDから立ち上がらない

考えられる原因	対策
フロッピードライブにフロッピーディスクが入っている。(A: 80 System Files...)	フロッピーディスクを出して再度電源を入れ直してください。

システムディスクが挿入されていない。	システムディスクを装着してください。
--------------------	--------------------

# ■フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対策
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク装置が故障している。	製品に付属しているフロッピーディスクを動かしてみて、動かない時には、お買い求めの販売店にご相談ください。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	ライトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。
フォーマット形式の異なるフロッピーディスクがセットされている。	正しいフロッピーディスクをセットしてください。
ドライブ指定が合っていない。	ドライブ指定を正しく設定し直してください。
フロッピーディスクのメモリー残容量が充分でない。	不要なファイルを削除するか新しいフロッピーディスクを使用してください。

# ■押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対策
CAPSロック、NUMロック、“カナ”キー等のセッティングが間違っている。	各キーを目的のセッティングに合わせてください。

# ■カーソルが動かず画面が移動する

考えられる原因	対策
SCRLロック状態になっている。	SCRLロックを解除してください。

# ■いきなり画面が消えた

考えられる原因	対策
電源コンセントまたは、ACアダプタープラグが外れてしまった。	コンセントまたは、プラグを挿入してください。



サスペンドタイムアウトやデバイスタイムアウトが発生した。	レジュームまたは、システムコンフィグレーションを変更してください。
------------------------------	-----------------------------------

## ■印刷出来ない

考えられる原因	対策
プリンターの電源が入っていない。	プリンターの電源を入れてください。
接続ケーブルが外れている。	接続ケーブルを正しく接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を入れてください。

## ■外部マウスが動作しない

考えられる原因	対策
接続ケーブルが外れているまたは、未挿入である。	接続ケーブルを正しく挿入し、もし動かない場合には、再度電源を入れ直して下さい。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再投入してください。
専用アダプタを使用していない。(PS/2マウス時)	専用キーボード・マウス接続アダプタをお求めの上使用してください。また当アダプタには外部キーボード専用接続コネクタとPS/2マウス専用接続コネクタがあります。PS/2マウスはマウス専用接続ポートに接続してください。
外部キーボードポートに直接挿入されている。(PS/2マウス時)	専用キーボード・マウス接続アダプタをお求めの上使用してください。
適正なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。

## ■ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対策
バッテリー容量がなくなっている。	ACアダプターを接続するかまたは、一度電源を切って別の充電済みのバッテリーを装着してください。
ACアダプタープラグが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。

## ■表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対策
---------	----

日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。
------------------------------	----------------------

### ■充電表示用LEDが点灯しない

考えられる原因	対策
バッテリー端子の接触不良。	バッテリーを一度取外してから、そわらかい布で端子部分を軽く拭いてください。

### ■サスペンド/レジュームできない

考えられる原因	対策
正しくパワーマネージメントメニューの設定を行っていない。	パワーマネージメントメニューを呼び出し正しく設定を行ってください。
バッテリー容量がなくなった。	A.Cアダプタまたは、充電済みのバッテリーに交換し再度電源を入れ直してください。

#### 注意

HDDを修理する場合はドライブのみの修理若しくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データ等の保証、修復はいたしかねますので重要なものについては必ずコピーをとるようお願いいたします。

## チャプタ 8 こんなことをしたい

### このチャプタでは

- ソーテック *WinBook* コンピュータをご使用になる際の代表的な操作法を説明しています。

## システム全体

### ■スピーカーから音が出ないようにしたい

- <Fn>+<Esc>を押して、PMメニューを呼び出してください。
- Controlsサブメニューの項目で上下カーサ移動キーを押します。
- Beeperの項目の左側にはチェックマーク“/”が表示されているはずですが、
- <Enter>を押します。
- Beeperの左側のチェックマーク“/”は消えます。
- <Esc>を押します。
- <F10>を押します。
- <Esc>を押します。
- <Fn>+<Esc>を押す前の画面に戻り、完了です。

#### 注意

バッテリー残量が少なくなった時の警告音も出なくなります。

### ■サスペンド・レジューム機能を使いたい

- <Fn>+<Esc>を押して、PMメニューを呼び出してください。
- Controlsサブメニューの項目で上下カーサ移動キーを押します。
- Power Switchの項目の右側に“Suspend/Resume”と出ているれば、<Esc>を2回押して終了します。
- Power Switchの項目の右側に“On/Off”と出ているときは<Enter>を押し、“Suspend/Resume”に変更します。
- <Esc>を押します。
- <F10>を押します。
- <Fn>+<Esc>を押す前の画面に戻り、完了です。電源スイッチを押してサスペンドすることができるようになります。

### ■サスペンド・レジューム機能を使いたくない

- 前項のPower Switchの表示を" On/Off" に設定してください。

#### ■CPUのスピードを遅くしたい (一時的)

- <Fn>+<T>を押してください。CPULEDがオレンジ色に点灯すればCPUの速度は一時的に遅くすることができます。もう一度<Fn>+<T>を押せばもとの速度に戻ります。この低速モードの場合は8.25MHz (J2DX2/SDC14225MHz、J2DX4/100CLは60MHz) まで減速します。

#### ■CPUのスピードを遅くしたい (スタート時いつも)

- <Ctrl>+<Alt>+<S>を押してシステムコンフィグレーションメニューを呼び出す。
- Preferencesサブメニューの項目で上下カーソル移動キーを押します。
- Boot Speedの項目にて" Slow Clock" にマークされていれば、<Esc>を2回押して終了します。
- Boot Speedの項目にて" Fast Clock" にマークされていれば" Slow Clock" に変更します。
- <Esc>を押します。
- <F10>を押します。

#### ■時刻・日付を修正したい

- DOSコマンドによる方法とシステムコンフィグレーションによる修正方法があります。
- チャプタ1の" コンピュータをスタートさせる" の項目のDOSプロンプトにおける日付・時刻の設定をご覧ください。
- システムコンフィグレーションによる変更方法はチャプタ5の" Date, Time" の項目をご覧ください。

## 画面関連

### ■LCD表示の反転をしたい

- キーボードから<Fn>+<Fn>を押してください。またコンピュータのスタート時いつでも反転させておきたい時にはシステムコンフィグレーションの設定を変更します。チャプタ5のVGAの項目をお読みください。なおこの設定は白黒LCDモデル（J2SX/33、J2SX/33L）のみ可能です。

### ■CRTとの同時表示をしたい

- リファレンスディスクに入っているユーティリティSIMUL.EXEを使用します。
- ソフトインストール版のモデルをお持ちの方はハードディスクのVGADUTILディレクトリにSIMUL.EXEが、すでにセットアップされています。
- DOSプロンプトで、SIMUL<Enter>とタイプしてください。
- LCDとCRTは同時表示になります。ただし、CRTが高解像度表示中にはこのプログラムを実行することはできません。
- またシステムコンフィグレーションの設定により、同時表示を行うようにすることも出来ます。チャプタ5のVGAの項目をお読みください。

### ■CRTとの同時表示をしたくない

- リファレンスディスクに入っているユーティリティLCD.EXEを使用します。
- DOSプロンプトで、LCD<Enter>とタイプします。
- またシステムコンフィグレーションの設定により、同時表示を行うようにすることも出来ます。チャプタ5のVGAの項目をお読みください。

## Appendix A システムの仕様

モデル		125X/38L1	125X/38C1
CPU		5Lコア・インスト48GBX-82MH	両方
システムRAM	容量	8GB 5Vタイプ	両方
	最大	20MB (16MB RAMカード5Vタイプ1枚追加可能)	両方
BIOSROM		128KB フラッシュROM	両方
ビデオメモリ		512KB 16ビット増設ローカルバス	両方
ハードディスク		280MB 薄型式	両方
フロッピーディスク		3.5インチ 2モード1、44MB/720KB 両方	両方
ビデオ	LCD	640x480ドット モノクローム 最大64画素 0.3mmピッチ 9.4インチ 液晶保護バックライト	640x480ドット DSTNカラー256色 0.3mmピッチRGB-4色 9.4インチ 液晶保護バックライト
	拡張性	最大1024x768ドット18bit (インターレース) LCDと液晶保護バックライト	両方
インターフェース		シリアルポート パラレルポート 外部CRTポート 外部キーボードポート ICカードスロット	両方
キーボード	仕様	2、5pinキーストローク メカニカル型	両方
	キー数	84キー (106キーシミュレーション)	両方
マウス		1.3mmピッチトラックボール内蔵	両方
電源管理機能		パスワード設定による保護機能	両方
パワーセーブ機能		CPUクロックダウン ビデオオフ機能 ハードディスク停止 サスペンド・レジューム機能 などもユーザにて選択可能	両方
充電・時計・設定		リチウム電池に1年バックアップ 3年間	両方
電源	ACアダプタ	入力100V-240V50-60ヘルツ 出力19V1800mA	両方
	電池	ニッケル水素充電式電池 12V2300mAh	両方
寸法		296 (W) x 218 (D) x 41 (H) ピン角半径4.6 (単位mm)	296 (W) x 218 (D) x 48 (H)
重量		2.3Kg	2.5Kg

モデル		J25X/S5CXi	J2DN2/S5CI
CPU		512MHz/333MHz	512MHz/333MHz
メモリアラム	構成	RAM 5Vタイプ	RAM 3.3Vタイプ
	最大	20MB/16MB RAMカード5Vタイプ1枚まで (左側)	20MB/16MB RAMカード3.3Vタイプ1 (左側時)
BIOS ROM		128KB フラッシュROM	同左
ビデオメモリ		512KB 16ビットローカルバス	同左
ハードディスク		840MB 密着式	840MB 密着式
フロッピーディスク		3.5インチ 2ヘッド1.44MB/720KB 内蔵	3.5インチ 2ヘッド1.44MB/1.2MB/ 720KB 内蔵
ビデオ	LCD	840x480ドット TFTカラー26万色 0.8mmピッチ 9.4インチ 高解像度バックライト	640x480ドット 15.1インチカラー26万色 0.8mmピッチRGB-16 10.5インチ 高解像度バックライト
	CRT	最大1024x768ドット18インチ(インターレース) LCDと同解像度にて同時表示可能	同左
インターフェース		シリアルポート パラレルポート 外部CD-ROM 外部キーボードポート LCカードスロット	同左
キーボード	分類	3.5mmキーストローク メンプレン型	同左
	キー数	84キー(104キーエミュレーション)	同左
マウス		1.1mmピッチトラックボール内蔵	同左
電源管理機能		パワーオフ設定による保護機能	同左
パワーセーブ機能		CPUクロックダウン ビデオ表示停止 ハードディスク停止 オスベンド・レシユー機能 などをコマンドにて選択可能	同左
充電・時計・設定		リチウム電池によるバックアップ 5年保証	同左
電源	A/Cアダプタ	入力100V~240V50-60Hz 出力15V1800mA	同左
	電池	ニッケル水素電池式 1.2V2300mAh	同左
寸法		296 (W) x 216 (D) x 45 (H)	296 (W) x 216 (D) x 45 (H)
重量		2.6Kg	2.8Kg



モデル		J2DX4/100CL
CPU		8Lエンハンスド486DX4-100MHz
システムRAM	容量	8MB 8.25Vタイプ
	最大	20MB (16MB RAMカード3, 3.3Vタイプ1枚追加時)
HDD/ROM		153KB フロッピーROM
ビデオメモリ		412KB 36ビット幅ローカルバス
ハードディスク		340MB 磁気式
フロッピーディスク		8, 5インチ 360FD1, 44MB/1.2MB/20KB 両方
ビデオ	LCD	640x480ドット 256色カラー256色 0.75mmピッチ双口ローター 10.3インチ 肉体構造バックライト
	CRT	最大1024x768ドット16色(インターレース) モニターと同期発生にて映像表示可能
インターフェース		シリアルポート パラレルポート 光ファイバーポート 外部キーボードポート 3Cカードスロット
キーボード	仕様	2.5mmキーストローク テンブロン型
	キー数	84キー(110キーエミュレーション)
マウス		11mm厚トヨタボールマウス
機能拡張機能		パスワード設定による保護機能
パワーマープ機能		CPUクロックダウン ビデオ表示停止 ハードディスク停止 サスペンド・レゾーム機能 などをユーザにて選択可能
オレインダ・時計・温度		3デューム電池によるバックアップ 2年間
電源	ACアダプタ	入力100V~240V50・60ヘルツ 出力19V1300mA
	電池	ニッケル水素充電池 12V3800mAh
消費電力		29.6 [W] (21.8 [W] (最大))
寸法		2.6X4

## Appendix B ユーティリティとドライバソフト

添付のリファレンスディスクにはシステムをより快適に使用するためのいくつかのプログラムファイルが書き込まれています。ここではそのプログラムやドライバについての使い方を説明しています。

## ディスプレイ関連

### ■表示切り替えプログラム

これらのユーティリティは表示モードを簡単に切り替える為のもので、DOSプロンプトもしくはWindowsのプログラム上で動きます。

DOSプロンプトで動かす時は次のいずれかを入力して下さい。

- ・ CRT [`<Enter>`]
- ・ PANEL [`<Enter>`]
- ・ SIMUL [`<Enter>`]

CRTユーティリティは表示を外部CRTに切り替えます。

Panelはその時の表示モードが640X480以下の時にLCD表示に切り替えます。

Simulはその時の表示モードが640X480以下の時にLCDと外部CRTの両方で同時表示するように切り替えます。

### ■Windowsディスプレイドライバのインストール

インストールバージョンにはWindowsディスプレイドライバが既に組み込まれていますが、新たにインストールしたい場合は下記に示す手順に準拠してインストールしてください。

- 1 Windowsを立ちあげます。
- 2 ドライブAにリファレンスディスクをセットします。
- 3 プログラムマネージャ<アイコン (F)><ファイル名を指定して実行 (R)>を選択します。
- 4 <コマンドライン (C)>のテキストボックスにA:VGAINSTとタイプします。
- 5 <OK>を選択すると自動的にインストールが始まります。

## ICカード関連

### ■CardSoftインストール

ICカードを快適に使用していただくためにカードソフトを用意しています。**WinBook**コンピュータは出荷時カードソフトがインストールされていますが、ICカードを動作可能にするためにはCONFIG.SYS内のデバイスドライバ文を変更する必要があります。

CONFIG.SYSの内容はMS-DOSのEDITコマンド等にてご確認でき又変更することも可能です。EDITコマンドはMS-DOSのディレクトリー内にあります。ルートディレクトリから操作される場合には下記のように入力してください。

#### 注意

CONFIG.SYSを変更する場合は、その前に必ずバックアップファイル（CONFIG.OLD等）をお作り下さい。カードソフトの起動時にWARNINGメッセージが4行表示されますが、これは異常ではありません。そのままお使いください。

C:\>CDVDOS <Enter>

C:\>DOSEEDIT <ENTER>

CONFIG.SYS内の文を下記のとおり変更してください。

#### 出荷時の設定

```
DEVICE=C:\VDOS\VRMM386.EXE
ram DEVICE=C:\VCARDSOFT\SSCIRRUS.EXE
ram DEVICE=C:\VCARDSOFT\WCS.EXE
ram DEVICE=C:\VCARDSOFT\WCSALLOC.EXE C:\VCARDSOFT\WCSALLOC.INI
ram DEVICE=C:\VCARDSOFT\WATADRV.EXE
ram DEVICE=C:\VCARDSOFT\YSRAMDRV.EXE
ram DEVICE=C:\VCARDSOFT\WCARDID.EXE
```

#### リマークを外した後の設定

```
DEVICE=C:\VDOS\VRMM386.EXE X=C800-CFFF
DEVICE=C:\VCARDSOFT\SSCIRRUS.EXE
DEVICE=C:\VCARDSOFT\WCS.EXE
DEVICE=C:\VCARDSOFT\WCSALLOC.EXE C:\VCARDSOFT\WCSALLOC.INI
DEVICE=C:\VCARDSOFT\WATADRV.EXE
DEVICE=C:\VCARDSOFT\YSRAMDRV.EXE
DEVICE=C:\VCARDSOFT\WCARDID.EXE
```

又、新たにデバイスドライバをインストールしたい場合はリファレンスディスクをご活用下さい。詳しいインストールの方法、使い方についてはリファレンスディスクのREADME.TXTをEDITコマンド等を使ってご覧ください。

## パワーセーブ関連

### ■POWER. EXE

POWER. EXEはコンピュータの性能を落とさずに消費電力を低下させるために取り決められた規格です。ソーテック**WinBook**コンピュータはPOWER. EXEをサポートしています。既に組み込まれていますが、MS-DOSの別売品をお使いになる場合にも必ずPOWER. EXEをCONFIG. SYSに組み込むことをお奨めいたします。

- MS-DOSをインストールしてください。
- CONFIG. SYSファイルの中に以下の一行を加えます。“DOS?”と書いてあるのはPOWER. EXEをコピーしたサブディレクトリパスを指定するためのものです。コピーしたパスをここで指定してください。

DEVICE=C:\YDOS\POWER. EXE

- <Ctrl>+<Alt>+<Del>を押して、MS-DOSの再起込み込みを行い、この組み込みを有効にします。

### ■APM

APM (アドバンスド パワー マネージメント) はコンピュータの性能を落とさずに消費電力を低下させるために取り決められた規格です。ソーテック**WinBook**コンピュータはAPMをサポートしています。Windowsをインストールされる場合には“カスタムセットアップでインストールする”を選択し、システム情報の“コンピュータ:”の項目が“MS-DOS with APM”になるように選択してください。単なる“MS-DOS”設定より、アイドル時の大幅な消費電力の低下を実現することができます。なお、ソーテック**WinBook**コンピュータはすでにWindowsは“MS-DOS with APM”に設定されています。

### ■PMEXT. SYS

このプログラムはソーテック**WinBook**コンピュータをご使用中にサスペンドレジュームを行った時に発生する時刻のずれを修正するための専用デバイスドライバです。

ソーテック**WinBook**コンピュータはシステムには既に組み込まれていますが、既にMS-DOSをお持ちの場合はインストールを行った後に、このデバイスドライバを以下のように組み込んでください。

- MS-DOSをインストールしてください。
- リファレンスディスクをフロッピーディスクに装着し、PMEXT. SYSファイルをハードディスクにコピーしてください。

- CONFIG.SYSファイルの中に以下の一行を加えます。“PATH\*”と書いてあるのはPMEXT.SYSをコピーしたサブディレクトリパスを指定するためのものです。コピーしたパスをここで指定してください。

DEVICE=C:\MPATH\\*PMEXT.SYS

- <Ctrl>+<Alt>+<Del>を押して、MS-DOSの再読み込みを行い、この組み込みを有効にします。

## Appendix C システムメモリマップ

FFFFFFFFH FFE00000H	ROMイメージ及びシステムBIOS・PMプログラム領域	
FFDFFFFFFH 01600000H	予約領域	
016FFFFFFH 00C00000H	予約領域	16MB拡張RAMモジュール
00BFFFFFFH 00800000H	4MB拡張RAMモジュール	
007FFFFFFH 00300000H	4MB拡張RAMモジュール	
002FFFFFFH 00100000H	標準組み込み RAM	
000FFFFFFH 000F0000H	システムBIOS	
000F7FFFFH 000F0000H	PMプログラム領域	
000EFFFFFFH 000E8000H	PMプログラムデータ領域	
000E7FFFFH 000E0000H	VGA BIOS ROMイメージ	
000DFFFFFFH 000C8000H	予約エリア	
000C7FFFFH 000C0000H	VGA BIOS	
0000BFFFFFFH 0000A0000H	VGAディスプレイメモリ	
00009FFFFFFH 000000000H	メインメモリ 840Kバイト	

## Appendix D システム I/O マップ

03F8H~03FFH	COM1シリアルポート (シリアルポート)
03F0H~03F7H	フロッピーディスクコントローラ
03E2H~03EFH	予約領域
03E0H~03E1H	ICカードコントローラ
03C0H~03DFH	ディスプレイコントローラ
03B0H~03BFH	LPT3プリンタポート
0380H~03AFH	予約領域
0370H~037FH	LPT1プリンタポート (プリンタポート)
0300H~036FH	予約領域
02F0H~02FFH	COM2シリアルポート (MTB)
0280H~02EFH	予約領域
0270H~027FH	LPT2プリンタポート
0200H~026FH	予約領域
01F0H~01FFH	ハードディスク
0100H~01EFH	予約領域
00F0H~00FFH	数値演算プロセッサ用予約領域
00E0H~00EFH	予約領域
00C0H~00DFH	DMAコントローラ2
00A0H~00BFH	割り込みコントローラ2
0080H~009FH	DMAページレジスタ
0070H~007FH	リアルタイムクロック・カウンタ・その他
0060H~006FH	キーボードコントローラ
0050H~0053H	予約領域
0040H~004FH	タイマーコントローラ
0030H~003FH	予約領域
0020H~002FH	割り込みコントローラ1
0010H~001FH	予約領域
0000H~000FH	DMAコントローラ1

( ) 内はデフォルト設定の割り当てを示します。



# 索引

## かな

### あ

アルファベット大文字, 53, 55  
アルファベット小文字, 53, 54

### い

イジェクトボタン, 37

### う

ウインドウズ, 5

### え

英記号, 54  
＜英数＞, 52  
英数字, 41  
英数等の入力モード, 52  
エスケープキー, 46  
エンベデッドキーを使う, 47

### お

オプションデバイスを装着する, 79

### か

カーサキー, 41  
カーソル, 31  
外觀説明, 16  
外部CRTポート, 22  
外部CRTモニタ, 83  
外部キーボード, 82  
外部キーボードポート, 23, 90  
外部マウス, 90  
書き込み禁止ノッチ, 38  
拡張RAMエリア, 19  
拡張RAMモジュール, 80  
拡張日本語キーボード, 49  
カタカナ, 53, 54  
カタカナ等の入力モード, 52  
かな記号, 53, 55  
カナ数字キー, 41  
かな入力のしかた, 52  
かな入力方式とローマ字入力方式, 52  
かな入力モード, 52  
画面関連, 95  
カレンダー, 24, 32  
漢字を入力する, 55

### き

キーボード, 40  
キーボード・マウスアダプタ, 23  
輝度調整ノブ, 17

### く

クリーニングディスク, 7  
クロックスピード, 25  
クロックスピードの選択, 49

### こ

高解像度表示, 5  
コントラスト調整ノブ, 17  
コンピュータの開け閉め, 14

### さ

サスペンド, 15, 61, 91, 93

### し

システムI/Oマップ, 105  
システムコンフィグレーション, 24, 36,  
49, 63  
システムコンフィグレーションプログラム  
, 65, 73  
システムの仕様, 96  
システムファンクションキー (システム制  
御キー), 49  
システムメモリマップ, 104  
シフトキー, 44  
充電, 8  
充電LED, 19, 59  
充電モード, 59  
周辺機器, 20  
周辺装置への接続, 22  
終了, 66  
消費電力の低減 (パワーセーブ), 56  
シリアルポート, 22

### す

数字, 53, 54  
スタンダードサブメニュー, 66  
ステータスLED, 18  
スピーカ, 93

### せ

全角入力モード, 52

### そ

ソフトウェア, 5  
ソフトウェアドライバインストール, 86

## 索引

### た

タイプ3のカード, 23

### て

データ書き込みを禁止, 38  
ディスクドライブ, 34  
テクニカルサポート, 12  
テックサポートFAXフォーム, 4  
デフォルトサブメニュー, 66  
電源, 24, 56  
電源LED, 19  
電源スイッチ, 19, 98  
電力を節約する, 60

### と

同時表示, 95  
トグルキー, 45  
時計, 24, 32  
ドライバソフト, 99  
取り扱い上の注意, 6

### に

日本語入力, 43, 51

### は

ハードウェア, 4  
ハードディスクドライブ, 35  
ハードディスク, 4, 34  
ハードディスクを取り外す, 35  
パスワードを設定, 64  
パスワードを設定する, 69  
発光ダイオード, 18  
バッテリーを交換する, 61  
バッテリーで動作させる, 59  
バッテリーの放電, 60  
バッテリーパック, 4, 7, 8, 29, 39  
バッテリーパックとりだしボタン, 21  
パワーを節約, 60  
パワーマネージメント, 49  
パワーマネージメントサブメニュー, 66, 71  
半角入力モード, 52

### ひ

標準機能, 3  
＜ひらがな＞, 51  
ひらがな, 53, 54  
ひらがな等の入力モード, 51

### ふ

ファンクションキー, 41, 46  
リファレンスサブメニュー, 66  
プリンタポート, 22  
フロッピーディスク, 34, 37, 99

### ほ

ポインタ, 26

### ま

マイクロコンピュータ, 25  
マイクロトラックボール, 19, 26  
マイクロトラックボールのクリーニング, 27

### み

右コントロールキー, 45

### め

メモリサブメニュー, 66

### も

文字をタイプするには, 51  
文字入力キー, 41  
文字の種類, 51

### ゆ

ユーティリティ, 99

### り

リセット, 33  
リセットスイッチ, 19  
リチウム電池, 24  
リチウムバッテリー, 7  
リポート, 64  
リファレンスディスク, 99

### れ

レジューム, 61, 91, 93

### ろ

ローバッテリー, 60  
ローマ字入力のしかた, 54  
ローマ字入力モード, 52

## 英字

# 索引

## A

ACアダプタ, 4, 6, 29  
ACコード, 29  
Alarm Resume (時刻設定によるレジューム), 74  
<Alt>+<ローマ字>, 52  
APM, 102  
Auto Suspend (オートサスペンド), 76

## B

Backspace (バックスペース) キー, 44  
Battery Low (バッテリー容量低下), 74  
Beeper On/Off (スピーカのオン・オフ), 75, 93  
Boot Password, 69  
Boot Speed, 68  
BOTH, 83

## C

Cache Enable, 71  
CAPSロック, 18, 45  
CardSoft, 101  
COM Port A, 67  
COM Port B, 27  
COM Port B, 67  
CONFIG. SYS, 39  
Controls (コントロールサブメニュー), 73  
Cover Switch (LCD装置を閉じた時の設定), 75  
CPU, 18  
CPU Idle (CPUのアイドル設定), 76  
CRT, 95  
<Ctrl>+<Alt>+<S>, 49, 65, 94  
<Ctrl>+<Alt>+<Del>, 33

## D

DATE, 32  
Date, 66  
DCINコネクタ, 29  
DC入力, 20  
Defaults (デフォルトサブメニュー), 71  
Defaults (デフォルトサブメニュー), 77  
Defaults, 66  
<Del> (デリート) キー, 44

Device (デバイスサブメニュー), 77

Diskette Drive, 67  
Display Mode, 70  
DOSプロンプト, 10, 31, 39

## E

<Enter> (エンター) キー, 43  
Exit, 68, 72, 78

## F

F1... F12, 41  
FDD, 20  
FDDアクセス, 18  
First Boot, 69  
<Fn>+<D>, 50, 95  
<Fn>+<Esc>, 49, 73  
<Fn>+<T>, 28, 49, 94

## G

Global Standby (グローバルスタンバイ), 78  
Graphics Mode, 70

## H

Hard Disk 1, 67  
Hard disk (ハードディスク部), 77  
HDD, 35, 83  
HDDアクセス, 18  
HDDカートリッジ取り出しボタン, 26  
HDDスロット, 18  
High Speed Com Port, 75

## I

ICカード (PCMCIAカード), 84  
ICカード, 20, 101  
<Insert>キー, 46

## L

LCD Automap Display, 70  
LCD, EXE, 95  
LCD, 7  
LCD画面, 17  
LCD/CRT設定, 83  
LCD画面白黒反転, 95  
LED, 16  
LPT Port Address, 67

## 索引

### M

Memory (メモリサブメニュー), 70  
Memory, 66  
Modem Ring Resume (モデム電話呼び出しによるレジューム), 74  
MS-DOS, 5, 10  
MTB, 26

### N

NUMロック, 18, 45, 68

### P

PCMCIAカードの装着, 84  
PCMCIAカードの取り外し, 85  
PMEXT. SYS, 102  
Power Management, 66  
Power Savings (パワーセーブ), 73, 102  
Power Switch (電源スイッチ), 74  
Preferences (プリファレンスサブメニュー), 68  
Preferences, 66  
PS/2キーボード, 23  
PS/2マウス, 23, 82  
PS/2外部キーボード, 82

### Q

Quick Boot, 68

### S

SCRLOCK, 18, 45  
Shadow System BIOS, 70  
Shadow Video BIOS, 70  
<Shift>+<カタカナ>, 52, 53  
Standard (スタンダードサブメニュー), 66  
Standard, 66  
System (システムサブメニュー), 76

### T

Text Mode, 70  
TIME, 32  
Time, 67  
Typematic Delay, 68  
Typematic Rate, 68

### V

VGA (VGAサブメニュー), 69  
VGA, 68  
VGAサブメニュー, 66  
Video Display, 68  
Video Monitoring (ビデオモニタリング), 77  
Video (ビデオ部), 77

### W

Warn Only (警告のみ), 74  
Windows, 5, 10

## 数字

1024FD, 39  
106キー, 40  
2. 5インチ, 34  
3. 5インチ, 34  
3. 5インチフロッピーディスク, 20  
3モードFDDの使用法, 39  
486, 3

**SOTEC**